

一 叢學書
近刻
一 習字帖
澁谷良平著

上等小學教科用書一覽表
一 兵用日本地理小誌 陸軍文庫
一 日本略史 全上
一 初學須知 文部省
一 物理階梯 片山淳吉藏板
一 輿地誌略 內田正雄編

一 支那國史略 冠嶺沖修著
一 修身論 文部省
一 養生篇 百科全書中
一 外國史略 西村兼文編輯
一 初學人身窮理 松山棟庵譯
一 小學化學書 文部省
一 生產道案内 小幡篤次郎著
一 經濟論 百科全書中
一 文法書 近刻
一 習字帖 澁谷良平著

一畫學書

近刻

明治九年九月改定

附屬小學校々則

愛知縣師範學校

附屬小學校々則

通則

第一條

附屬小學校ハ本校生徒ノ粗ホ成業セシ者ヲシテ猶其教法ヲ實地ニ練熟セシムル爲ニ設立スル所ナリ故ニ尋常ノ小學校ト小差ナキ能ハヌ其教法ノ如キハ專ハラ本校ノ正則ニ從フ

第二條

學科ヲ二等ニ區別ス曰ク上等小學下等小學

第三條

此二等ノ小學ヲ各八級ニ分テ每級六ヶ月ノ課程トシ每週二十八時間ノ修業トス

第四條

修業時間ハ五月一日ヨリ九月三十日迄ハ午

前第七時ヨリ正午第十二時ニ至リ十月一日ヨリ四月三十日マテハ午前第九時ヨリ正午第十二時ニ至リ午後第一時ヨリ第三時ニ至ル

第五條

病氣又不得已事故アリテ欠席スルモノハ其當日昇校時間迄ニ届出ツヘシ

第六條 無届ニテ二个月中廿日以上欠席スルモノハ事實ヲ查察シ退校ヲ命ス

入校規則

第一條 初テ此校ニ入ル生徒ハ通例年齢滿六年ヨリ七年ニ至ルモノトス

但し時宜ニ依リ七歳以上ノ者トイヘテ入校ヲ許ス
コアルヘシ

第二條 休質健康ニシテ種痘天然痘ヲ爲セシ者ニア
ラサレハ入校ヲ許サス

第三條 入學ハ毎年兩度ニシテ春秋試験ノ後トス最
モ生徒欠員アルニアラサレハ之ヲ許サス

第四條 入學期日并員數等ハ豫メ門外ニ揭示スヘシ

第五條 時宜ニヨリ春秋定期ノ外臨時入校ヲ許ス
コトアリ其告知ハ前條ニ同シ

第六條 入校ノ生徒ハ故ナク退校スルヲ許サス若シ
不得止事アリテ退校ヲ請フモノハ事實ヲ推問シ許可
スヘシ

第七條 入校志願ノ者ハ左ノ書式ヲ以テ本校へ願出
ツヘシ

願書式

用紙美濃紙堅二ツ折ニ
認メニ通差出スヘシ

何府華士族平民離子女

姓 名

年 月 生

右之者今般御校附属小學校へ入學爲致度此段相
願候也

但シ時宜ニ依リ七歳以上ノ者トイヘヒ入校ヲ許ス
コアルヘシ

第二條 休質健康ニシテ種痘天然痘ヲ爲セシ者ニア
ラサレハ入校ヲ許サス

第三條 入學ハ毎年兩度ニシテ春秋試験ノ後トス最
モ生徒欠員アルニアラサレハ之ヲ許サス

第四條 入學期日并員數等ハ豫メ門外ニ揭示スヘシ

第五條 時宜ニヨリ春秋定期ノ外臨時入校ヲ許ス
アリ其告知ハ前條ニ同シ

第六條 入校ノ生徒ハ故ナク退校スルヲ許サス若シ

不得止事アリテ退校ヲ請フモノハ事實ヲ推問シ許可
スヘシ

第七條 入校志願ノ者ハ左ノ書式ヲ以テ本校へ願出
ツヘシ

願書式

用紙美濃紙堅二ツ折ニ
認メニ通差出スヘシ

何府華士族平民誰子女

姓 名

年 月 生

右之者今般御校附属小學校へ入學爲致度此段相
願候也

年号月日

愛知縣師範學校

御中

右之通相違無之候也

何中學區取締

年号月日

姓名印

第八條 入學許可ヲ得タル者ハ左ノ雛形ノ通り引受
証書ヲ出スヘシ

但シ父母或ハ証人參校ノ上之ヲ差出スヘシ

證書式

用紙美濃紙二ツ折ニ
認メ一通差出スヘシ

何府
縣華士族平民離子女

姓名

年月生

右今般入學御允許相成候ニ付テハ御校規則違背
爲致間敷仍テ證書差出候也

愛知縣下何區何村何番地住

何府
縣華士族平民離父母或親族

年号月日

姓名印

愛知縣師範學校

御中

第九條 再ビ入學ヲ願フ者ハ前キニ退學ノ事故ヲ糺シテ之ヲ許可スヘシ

第十條 每級卒業ノ節ハ試験ノ上左ノ雛形ノ卒業證書ヲ付與スヘシ

何縣華士族平民離子女

愛知縣師範學校印

姓名 年月生

上等小學第何級卒業候事

年号 月日 愛知縣師範學校 第幾号

第十條 上等或ハ下等全科卒業ノ節ハ試験ノ上左ノ雛形ノ通卒業證書ヲ付與スヘシ

何縣華士族平民離子女

愛知縣師範學校印

姓名 年月生

上等小學全科卒業候事

年号 月日 愛知縣師範學校 第幾号

休日定則

第一條 年中休業左ノ如シ

孝明天皇祭日

紀元節

神武天皇祭日

神嘗祭

天長節

新嘗祭

夏期 (自七月二十日
至八月十九日)

冬期 (自十二月廿五日
至一月七日)

日曜日

水曜日 午後

第二條 臨時休業ハ其都度揭示スヘシ

生徒心得

- 一 上校ハ課業時刻ノ十分前ニ至ルヘシ
- 一 官員又ハ教師朋輩等ニ逢フキハ丁寧ニ禮ヲ行フヘシ
- 一 朋輩ノ交ハ互ニ信切ナルヘシ
- 一 途申游戲等ヲ爲スヘカラス
- 一 朋輩ノ者ト書籍筆紙墨等ヲ貸借スヘカラス
- 但シ余儀ナキ時ハ教師ニ告テ指示ヲ待ツヘシ
- 一 教場ヘハ雨衣ヲ着シ頸卷ヲ纏ヒ又ハ帽ヲ冠リテ其儘

出席スヘカラス

禁條罰則緒言

一 幼童ノ精神タルヤ其柔軟脆薄ナルヲ猶ソノ骨格ノ如
 レ故ニ慎テ之ヲ誘導シ決シテ粗暴ノ舉動アル可ラス
 一元來幼童ヲ肅整黽勉ノ地位ニ導クノ目的ハ教師ノ外
 形ト心術ト兩岐ノ外ニ求ムヘキナシ故ニ教師ソノ外
 形ノ舉措ト心術ノ作為ト苟モ宜シキニ適スルヤハ決
 ノ倦怠紛亂ノ心ヲ召クヲナン必ス注意スヘシ
 一 前條掲クル所ハ一時實踐シ難キモノアリ是ヲ以テ假
 ニ禁條罰則ナルモノヲ條設シ以テ其及テ能ハサル所

ヲ補フノミ決メ禁條罰則ハ學校ノ眞面目ニ非ス不得
 已ニ出ツルヲ了知スヘシ

禁條

- (1) 無用ノ玩弄物ヲ持參スル
- (2) 教場ニ於テ擅ニ席ヲ離ル
- (3) 教場ニ於テ猥ニ左右ヲ顧視シ手足ヲ動搖スル
- (4) 教師ノ許可ナク猥リニ教場ニ入ル
- (5) 教場ニ於テ猥リニ雜語笑談スル
- (6) 体操場外ニ散歩スル

- (7) 体操中隊伍ヲ擾ス
- (8) 放課中就業時間ニ及テ小用ニ行ク
- (9) 教場必需ノ器械ヲ忘却スル
- (10) 出席時間ニ後ル
- (11) 猥リニ食物ヲ持參スル
- (12) 瓦石類ヲ擲チ或ハ樹枝草花ヲ斬折スル
- (13) 無届欠席スル
- (14) 校中ヲ奔走シ或ハ猥リニ大聲ヲ發スル

（註）此等諸事ハ校中ニ於テ行ハレズ

- (16) 他生徒ノ成文算答ヲ剽竊スル
- (17) 校内ノ諸物ヲ破壊シ及ヒ校内ニ樂書スル
- (18) 人ヲ欺罔スル
- (19) 放肆怠惰ナル
- (20) 教師ノ命令ヲ用井サル

罰則

(7) 禁條(7)ヨリ(10)ニ至ルノ則チ犯スモノハ陰罰ヲ行フ
トハ教師衆生ノ前ニ於テ匿名ノ罪條ヲ口
 述シ衆生ニ手ヲ舉ケテ可否ヲ判セシム

- (2) 同(11)ヨリ(16)ノ則チ犯スモノハ陽罰ヲ行フ陰罰ト同一ナ
ト雖只隠名
ト舉名ノ異ナ
ルアルノミ
- (3) 同(17)ヨリ(18)ノ則チ犯スモノハ十五分間教場ニ直立セ
シムルヲ
- (4) 同(19)ヨリ(20)ノ則チ犯スモノハ末席ヲ命シ或ハ見留ナ
キモノハ之ヲ其父兄ニ公告スルヲ

第二百十七號

明治九年九月廿三日

當縣第四百四十五號ヲ以學區職員月俸之儀ハ官民折半給
與可致旨布達候處旅費之儀モ前同様來ル十月一日ヨリ
施行候條此旨布達候事

第貳百貳十一號

明治九年九月廿五日

學區取締
學區係
學校係

學區職員月俸旅費筆墨料支給規則別冊ノ通改定來ル十
月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

但拜命後本月迄ノ月俸受取方ノ義ハ別冊規則ニ照準
スヘシ

學區取續
月俸旅費筆墨料支給規則

學區取締 月俸旅費筆墨料支給規則
以下

第一條

學區取締暨學區係月給并旅費トモ折半シテ半額ヲ委
托金ヨリ給シ半額ハ區費ヲ以テ給ス學校係月俸(適宜給
與)并旅費ハ校費ヲ以テ支給スルモノトス

第二條

前條ノ月給ハ毎月廿日一中學區毎ニ其受取ヘキ月俸金
員第一號離形ニ照準シ第五課へ差出スヘシ同課ニ於テ
ハ之ヲ調査シ毎月廿五日ニ支給スルヲ定規トス
但免職病死旅行其他非常ノ事故アルハ此限ニアラス

第三條

月俸ハ一月ヲ前後ニ分テ新任十五日前ニアル者ハ其全
額ヲ給シ十六日後ハ半額ヲ給ス昇等増給モ亦之ニ準ス
降等及ヒ免職十五日前ニアル者ハ猶舊等ノ俸半額ヲ給
シ十六日後ハ其全額ヲ給ス免職ノ者其擔當セシ事務引
渡ニ付時日ヲ要スルモ別ニ俸ヲ給セス尤モ更ニ引渡事
務ヲ命スル者ハ此限ニアラス

但新任免職等ノ節月俸支給ノ法ハ本人辭令ヲ領受レ
タル日ヲ以テ十五日前後ヲ定ムヘシ

第四條

奉職中死去スル者ハ前條降等免職ト同シク月俸ヲ支給スルモノトス

第五條

上下半月内免職ノ者再任スレハ前職ノ俸ハ勿論後職ノ俸ヲ併セ給ス譬ヘハ十四日免職即日再任スルトモ前職ノ俸半額并後職ノ俸全額ヲ支給スルノ類ナリ

第六條

他所出張等ノ節其地ニ於テ月俸支給スヘカラサル者ハ事務ノ長短ヲ量リ三ヶ月迄ハ繰上ケ支給スヘシ尤繰上ケ願ハス留守宅ニ於テ受取ラント欲スル者ハ其旨趣及

ヒ請取名代人ヲ定メ發程前ニ申請セハ採用スヘシ

第七條

他ニ奉職スル者學區取締學區係ニ轉任セシ中前職ニテ擔當セシ事務引渡ノ爲メ時日ヲ經未タ當職ノ事務ヲ奉セスト雖モ月給ハ新任ノ處ニテ支給スル者トス

第八條

廢區等ノ節引渡事務ヲ命スル者ハ仍ホ舊等ノ月俸ヲ給スヘシ

但廢區及免職ノ者事務引渡ノ後更ニ出頭ヲ命スル者ハ舊等俸半額日割ヲ以テ支給スヘシ

第九條

學區取締許可ヲ得テ歸省スル者ハ休假中月俸ノ半額ヲ給ス學區係ト雖モ許可ヲ得テ休假スル者ハ減給ノ法取締ト異ルナシ

但計算法假令ハ十五日前奉職地ヲ發足スル者ハ下半ケ月分ヨリ減給ト十六日後ハ翌月ヨリ減給スヘシ

第十條

學區係以上病氣引ノ者ハ三ケ月ノ間月俸全額ヲ給シ猶三ケ月間ハ半額ヲ給シ其後ハ給セサルヘシ

但學區取締醫案ニ因リ奉職ノ地ヲ離レ郷里又ハ他方

限ニテ治療セント欲スル者ハ病症ノ輕重ニ從ヒ治療日限ヲ定メ願出ヘシ猶愈サル分ハ日限追願スヘシ又歸郷中發病續テ治療ヲ乞フ者ハ前同様願出ル勿論ト雖モ月給ハ第九條ノ通給スヘシ右病氣引計算假令ハ十五日前引込ノ者下半ケ月ヨリ之ヲ算ス學區係ト雖モ郷里ヲ離レ治療セント欲スル者ハ學區取締ト異ルナシ

第十一條

奉職ノ地ニ於テ父母病氣看護ノ爲テ休假ヲ與フル者ハ二ケ月 全額ヲ給シ其後ハ給セサルヘシ

第拾二條

公事失錯等ニテ糺問中ハ月俸全額ヲ給ス私事ニ涉ル糺問ト雖モ日數十五日マテハ尙ホ全額ヲ給スヘシ預ケ中或ハ事故アリテ出仕差止ル者及私事糺問日數十六日以上ニ及フ者等ハ月十五日前後ヲ區分シ減シテ五分ノ一ヲ給ス實決ノ刑ニ處セラル者ハ一切給セサルヘシ但出仕差止ル者及私事糺問十六日以上ニ及フト雖モ無罪ニ歸スルハ全額ヲ給スヘシ

第拾三條

忌引中ハ月俸全額ヲ給シ且ツ父母忌中墓參ノ爲メ歸郷

ヲ請フ者ハ其忌日限中ハ同ク之ヲ給シ其餘ノ日數ハ十五日前後ノ區分ヲ以テ第九條ノ通りタルヘシ

但歸郷給暇中父母ノ喪ニ遭フ者モ亦本條ニ據ルヘシ

第十四條

勤績滿三ヶ年以上ニシテ拔羣精勤ノ者ハ相當ノ酬勞金ヲ與フルヲアルヘシ

但滿年給與金ハ免職ノ節給スル者ナレハ免職ノ上即日奉職スルトモ固ヨリ勤績ニアラサルナリ

第十五條

出張并巡回トモ旅中一切ノ費用トシテ表面ノ通旅費日

當ヲ支給スヘシ

第十六條

學區取締タル者ハ出張巡回等ノ外ハ常ニ詰所ニ出頭シ事務ヲ料理スルモノナレハ旅費日當都テ該詰所ノ地ヨリ起算スヘシ亦學區係タル者ハ區内ノ事務ヲ分掌スル者ナルカ故ニ事務ノ緩急ヲ量リ詰所或ハ自宅ニアルトモ適宜ニ付其發途セシ地ヨリ旅費ヲ起算スル者トス但旅費受取方ノ儀ハ第二號離形ニ照準シ正副三通ヲ製シ其都度會テ渡置所ノ里程取調簿ヲ添へ受取方可申出尤都合ニ審リ一ヶ月中ノ巡回及ヒ出張旅費ヲ取

纏メ第三號離形ニ照準シ申出ルモ妨ナシトス

第十七條

陸路旅費ヲ三分シテ並旅行赴任旅行晝夜急行トナシ各一日拾里詰ヲ以テ表面ノ日當ヲ支給ス可シ拾里以上ノ端里數滿一里以上ハ日當一日分ヲ給シ一里未滿ハ切捨トス

第十八條

並旅行赴任旅行晝夜急行ハ該詰所ヨリ片道六里以上ヨリ之ヲ給ス尤片道六里未滿ハ第貳拾壹條ニ準ス

第十九條

赴任旅行ハ新任轉任ノ節本縣へ三里以上ノ者へハ(三里未滿ハ一切給セス)本縣へ呼出ノ旅費及詰所迄ノ旅費ハ都テ赴任旅費日當ヲ給スヘシ

但學區係以下本縣ノ都合ニ寄リ辭令ヲ取締詰所迄送付スル時ハ該所ヨリ三里以上ノ者へハ本文之通赴任旅費ヲ給ス尤學校係ハ第三拾貳條ニ準據シ校費ヲ以テ支給ス可シ

第貳拾條

晝夜急行ハ第拾八條ニ準シ急行ノ日當ヲ給ス片道三里未滿ノ地へ急行スル時ハ其現ニ費消スル所ノ金圓ヲ支

給スルモノトス

第貳拾一條

該詰所ヨリ片道六里未滿ノ旅行ハ總テ(出張巡回ニ拘ハラス)近方派出トシ片道三里未滿ニシテ日歸ナレハ日當ヲ給セス一泊スレハ滞留日當ヲ給シ片道三里以上六里未滿ハ日歸一泊ノ別ナク往返ニテ並旅行日當一日分ヲ給シ滞在スレハ滞留日當ヲ給ス

第貳拾條

出張先滞在中片道三里以上ノ地へ派出ノ節ハ第貳拾一條ニ準シ並旅行ノ日當ヲ給ス尤三里未滿ノ地へ同斷ノ

節ハ第貳拾五條滯留日當ノ外一切給與セズ
但滯在中縦横奔走ノ里數ハ算入セス

第貳十三條

巡回(學校巡視等ヲ云フ)ハ總テ日數ニ應シ(里程ハ算セ
ス)巡回日當ヲ給ス尤近方派出ハ第貳拾一條ニ準シ滯在
ノ節ハ第貳拾六條ニ準ス

第貳拾四條

拾里外ヨリ始ル巡回及ヒ此地ヨリ彼地へ移ルトキ拾里
以上ノ場所ハ第拾七條ニ準シ並旅行日當ヲ給シ即日巡
回スルトモ其日ハ別ニ日當ヲ給セス尤十里未満ハ第貳

拾三條ニ準シ日數ヲ以テ給ス

第貳拾五條

滯在日當ハ某地へ着セシ翌日ヨリ支給可シ

但並旅行等ニテ日積ヨリ早着スルトモ本條ニ準シ日
當ヲ給ス

第貳拾六條

出張并巡回中川留或ハ病氣等ノ事故アツテ滯在スルカ
亦ハ許可ヲ得事務半途ニレテ詰所へ歸ル時ハ其所ノ戸
長ノ証書病氣ハ醫師ノ診察書ヲ以テ願出レハ相當ノ日
當及ヒ旅費ヲ支給ス

第貳拾七條

管外旅行ハ表面ノ通旅費日當ヲ支給ス尤管内出張ノ節
道路ノ便宜ニヨリ他ノ管轄地ヲ通行スルノ類モ管内ニ
準ス故ニ管外旅行ノ節管内ヲ通行スルトモ管外ニ準ス

第貳拾八條

免職ノ其日ヨリ三十日以内ニ歸郷願出ル者ハ前職相當
表面ノ赴任旅行日當ヲ歸郷旅費トシテ本縣ヨリ郷里迄
支給スヘシ

但免職後歸郷セサル内再任スル者ハ旅費悉皆返納セ
シム學區係及ヒ學校係免職辭令取締詰所迄送付スル

中ハ該地ヨリ自宅ヲテ旅費支給スル方法ハ第拾九條
但書ニ異ルヲナシ

第貳拾九條

學區取締以下公事失錯等ニテ鞫問ノ爲メ本縣へ呼出シ
等ノ旅費ハ之ヲ給ス尤私事ニ係ル鞫問ヲ受クルカ又ハ
私ノ訴訟ニ付タル呼出シハ旅費一切給セサルヲ勿論タ
ルヘシ

但學校係ハ本條ノ手續ニテ旅費ヲ給スヘキ時ハ第
三十一條ニ準ズ

第三十條

學區係以上犯罪又ハ嫌疑等ニテ鞫問中職ヲ免スル者其
處決ノ上罪破廉耻ニ該ル歟又ハ私罪實決ノ刑ヲ受クル
者ニ歸郷旅費ヲ給セヌ

第三十一條

學校係止ヲ得サルノ事故アツテ出張スル時ハ第十八條
及第二十一條ニ據リ並旅行一日金五十錢滞在一日金二十
五錢學校費ヲ以テ給與スヘシ

第三十二條

學區係以上ハ筆墨料トシテ每月金十錢ヲ委托金ヨリ支
給ス學校係ハ學校費ヲ以テ壹ヶ月金六錢ヲ給與スヘシ

第三十三條

學區係以上筆墨料ハ第四號雛形ニ照準シ毎月廿日受取
方申出ヘシ學校係筆墨料ノ義ハ學區取締ニ於テ所轄小
學校事務ノ繁閑暨ヒ情况ヲ斟酌シ支給セサルモ妨ナシ
トス

月俸請取証用紙半紙野

何中學區取締以下何月分月俸受取証

一金何圓

何等學區取締姓名印

一金、、

何等學區係姓名印

一金、、

、、、、、、、、

合金何圓

右、何月分月給正、受取候也

年月日

愛知縣

第五課御中

形 離 號 一 第

旅費受取証用紙半紙野

一金何圓

職 姓 名

証

但何々御用ニ付何年何月何日何國何郡何町出立何月何日

何國何郡何處迄出張(巡回ナレハ出立以下ニ代ニル)何郡何村始巡回内迄

回日數何日一日金何拾錢滞在何日一日金何拾錢並旅行何

日分一日金何拾錢)何月何日迄滞在何月何日出立何月何

日歸着片道里數何里ニ付並旅行何日分一日金何拾錢滞在

何日分一日金何拾錢(合金如期

右之通旅費御下渡相成度此段奉願候也

年月日

右 姓 名 印

縣令宛

形 離 號 二 第

第三號但書ハ第二號但書ニ異ルナレ

証

一金何圓

職姓名

內

金何圓

但何々、、、

金何圓

但何々、、、

右之通、、、

年月日

右姓名印

縣令宛

第三號形

學區取締以下旅費給與表

職名	學區取締	學區係
管外並 旅行	十一圓五 錢	一圓
同滞在	三十五錢	三十錢
管內並 旅行	一圓	八十錢
同滞在	三十錢	二十五錢
巡回	六十錢	五十錢
晝夜急行	十一圓九 錢	十一圓五 錢
赴任旅行	一圓廿 五錢	一圓

筆墨料受取証用紙半紙野

何中學區取締以下何月分筆墨料受取証

一金 何等學區取締姓名印

一金 何等學區係姓名印

一金

合金何圓

右ハ何月分筆墨料正ニ受取候也

年月日

愛知縣

第五課御中

形 號 四 第

第貳百三十九號

明治九年十月十日

學區取締

學區掛

學校掛

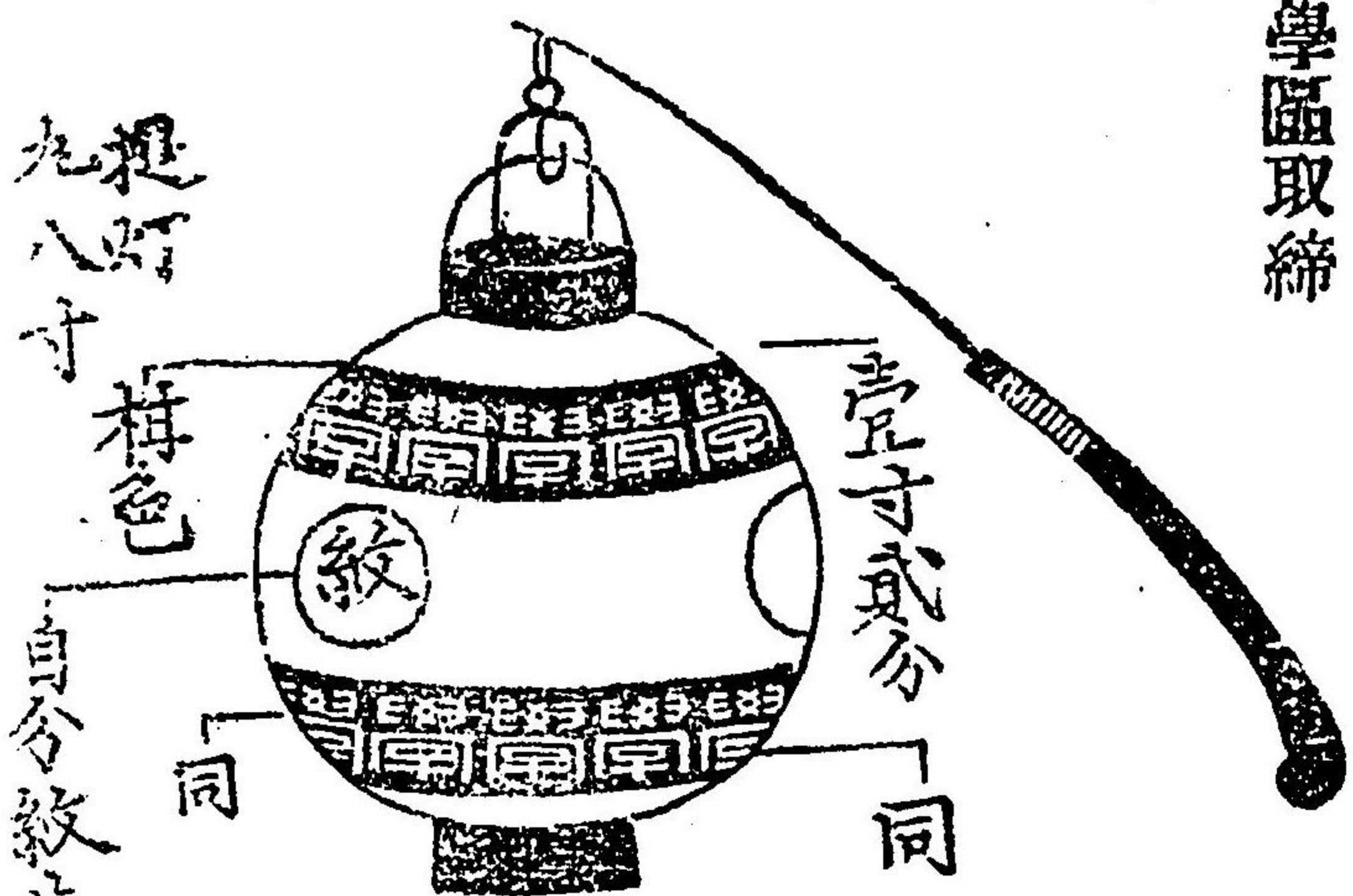
當縣第貳百貳十壹號ヲ以テ相違候學區取締以下月俸旅費筆墨料支給規則但書中月俸ノ下ニ(旅費筆墨料)ノ五字ヲ增加候條此旨更ニ相違候事

甲第九號

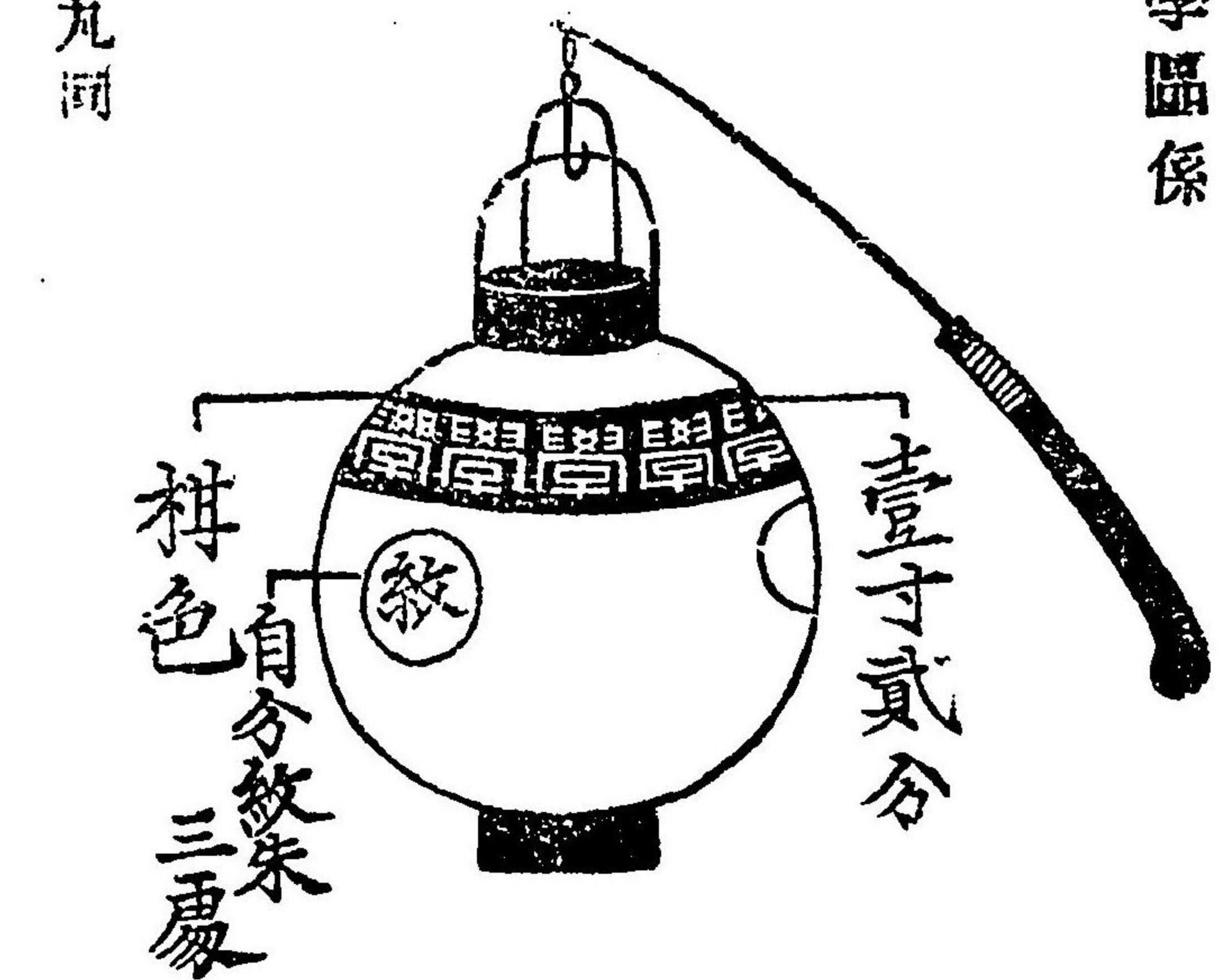
明治九年十月廿五日

學區取締并學區係提灯徽章圖面之通相定候條此旨布達候事

學區取締



學區係



甲第十三號

明治九年十月廿七日

左之通文部省より報告相成候條此旨布達候事

文部省報告 第四十一號

明治九年十月二十一日發行

第一大學區東京醫學校ニ於テ年齒既ニ長スルカ或ハ他
 ノ職業ニ従事スル等ノ事故ヲ以テ外國語學ヲ修ムルニ
 違アラサル者ノ爲ニ邦語ヲ以テ製藥學ヲ教授セントス
 其規則左ノ如シ

東京醫學校製藥學科通學生規則

前年來本校中ニ製藥學科ヲ置キ青年生徒ヲ教授スト雖

七年齒既ニ長シ外國語學羅甸學等ノ豫科ヲ修ムルノ歳
月ニ乏シク或ハ他ノ職務ニ從事シ全ク身ヲ修學ニ委シ
テ其蘊奧ヲ究ムルヲ能ハサル者ノ爲メニ今茲別ニ通學
生教場ヲ開キ邦語ヲ以テ製藥學ノ大意ヲ講授シ親カラ
藥物ヲ試驗製煉スルノ端緒ヲ得セシメントス其教則左
ノ如シ

第一條

製藥學大意修業年限ハ滿二年ト定メ之ヲ分ツテ四學期
ト爲ス

第一期

物理學一時 化學二時 植物學一時

第二期

化學一時 藥品學一時 金石學動物學共二時 植物學一時

第三期

藥品學一時 製煉學一時 毒物學藥局規律共二時 調劑法一時

第四期

製藥局實地演習四時 製煉學 藥檢査法共二時

右ノ外第一期第二期ノ間ニ於テ生徒ノ學識ヲ斟量シ算
術及ヒ洋字書法ノ初步ヲ教授スルヲアルヘシ

第二條

毎年五月十一月ニ當ツク生徒ノ入學ヲ許ス

第三條

入學生徒ハ受業料トシテ每學期始メ金六圓ヲ納メシム
但半途退學スル者ハ既納ノ受業料ヲ返付スルコトナレ

第四條

每期ノ末ニ試問ヲ設ケテ生徒學業ノ進否ヲ徴シ二年滿
期ノ後ニハ大試業ヲ舉行シ成業ノ者ニハ製藥學大意卒
業ノ證狀ヲ與フ

甲第二十六號

明治九年十一月十一日

左之通報告知相成候條此旨布達候事

文部省報告 第四十四號

明治九年十一月四日發行

東京書籍館ニ於テ内外人ノ求覽ニ供セン爲メニ百般ノ
書籍ヲ蒐集スト雖モ設立年尙淺ク未タ完全充備ニ至ラ
サルヲ以テ有志ノ人若レ所藏ノ書籍ヲ納付シテ其缺ヲ
補ヒ且其保存ヲ悠久ニ要スルモノハ其名目同數ト本人
ノ居所屬籍姓名トヲ詳記シテ直ニ同館ヘ通信スヘレ其
書籍ノ品類ト納付人ノ情願トニ由リ同館ヨリ運送費ヲ
支給スルコトモアルヘシ

但シ書籍ノ交托ヲ請求スル處モ亦本文ニ準シ

甲第四十七號

明治九年十二月廿四日

管内各小學教員月給之義是迄舊幹事等之見込ヲ以テ増減取扱候向_マ有之候處自然不公平ヲ生シ候テハ弊害不少ニ付自今第五課ニ於テ直接ニ取扱候條此旨爲心得布達候事

甲第拾四號

明治十年一月十七日

今般傳習試驗係ヲ廢シ更ニ教授改正係ヲ設ケ終局毎ニ第五課々員ヲ派遣_遣シ實際授業ノ巧拙學力ノ優劣ヲ判テ新ニ免証令授與候尤拙劣ノ輩ハ當分仮教員トシ異日進歩ノ都度相當可爲取扱候條此旨爲心得布達候事

甲第四百四十四號

明治十年七月十七日

管内學事一層擴張可致ニ付自今學區ノ情況ト教員ノ技倆ヲ觀察シ官金ヲ以テ給料補助候儀モ可有之此旨布達候事

甲第四百七十二號

明治十年八月十五日

今般各中學區學區吏員ヲ廢止シ更ニ各區會所ニ學區取締學區幹事ヲ置キ准等給料左之通相定及用係ヲシテ適宜學校係ヲ兼務セシメ候條此旨布達候事

但學區取締學區幹事給料ノ儀ハ悉皆委托補助金ヨリ給與シ學區取締旅費日當ハ區長ニ準シ學區幹事ハ副

戶長ニ準シ區費ヲ以支給可致事

職名	准等	給料
一等學區取締	十二等	拾五圓
二等學區取締	十三等	拾四圓
三等學區取締	十四等	拾三圓
四等學區取締	十五等	拾貳圓
一等學區幹事	一等副戶長次席	八圓
二等學區幹事	貳等副戶長次席	七圓
三等學區幹事	三等副戶長次席	六圓

但學區幹事ハ一月貳圓ノ手當金ヲ給與ス

甲第七十八號

明治十年八月二十四日

學區幹事提燈徽章之儀昨九年當縣田第九号布達舊學區係同様相定候條此旨布達候事

但學區取締ハ從前之通可相心得事

甲第九十六号

明治十年九月十一日

女範學校豫科生徒年齡之儀自今滿十二年以上十六年以下ト改定候條此旨布達候事

乙第五十四号

明治十年八月十五日

區 長

今般甲第七十貳号ヲ以テ及布達候學區吏員各區會所

へ新置候付テハ自今學事一層振起候様可致盡力此旨相
達候事

但學校係ハ其土地ノ景狀ニ據リ適宜用係へ兼務セシ
メ増減進退等取扱ノ儀ハ用係同様可相心得事

乙第百六十三號

明治十年八月廿八日

區長

學區取締

昨九年當縣第二百貳拾壹號ヲ以相達候學區職員月俸旅
費筆墨料支給規則本月十五日限り相廢シ自今學區取締
學區幹事月給筆墨料之義ハ總テ區吏員月俸筆墨料支給

規則ニ準シ給與候條此旨相達候事

但月給并筆墨料受領証ハ左之雛形ニ倣ヒ毎月十五日
マテニ本廳第五課へ差出十七日ニ受取方可申出事

月給並手當金受領証用紙半紙野

証

一金何圓

一金何圓

一金何圓

但御手當金

一金、

一金、

但、

合金何圓

右ハ何月分月給并御手當金正ニ受取候也

年月日

縣令宛

第何區擔當

何等學區取締

姓名印

姓名印

姓名印

筆墨料受領証用紙全前

証

第何區擔當

何等學區取締

姓名印

全

何等學區幹事

姓名印

一金

合金何圓

右ハ何月分筆墨料正ニ受取候也

年月日

縣令宛

乙第百八十五号

明治十年九月十八日

學區取締

學區幹事

今般學區取締學區幹事役印之儀左之雛形之通相定候條
區費ヲ以彫製可致此旨相達候事
但區長兼務之者モ本文之通

曲尺五分角

曲尺四分角

何等學區取締
姓名印

何等學區幹事
姓名印

乙第百九十壹号

明治十年九月廿二日

學區取締

學齡生徒就學不就學ノ觀別ヲ成サンカ爲ニ就學牌ヲ製
造シ各生徒ニ佩帶セシメントス依テ假規則左ノ通創定
候條一般ニ普及候様可致獎諭此旨相達候事

第一條

一就學牌ハ學校係之レヲ預リ入學スル者アレハ即日貸
與ス可レ

第二條

一就學生徒ハ平常遊戲ノ間モ之レヲ佩帶セシムルモノ

トス

但鈎ヲ左襟ニ懸ク

第三條

一 退校スル者ハ即日學校係ニ返還セシムヘシ

第四條

一 此牌ヲ遺失スルカ若レクハ盜マル、等ノコトアレハ學校係ハ勿論最寄警察分署ニ届出サセ學校係ニ於テハ普ク聯區内へ告知シ若シ搜索シ得サレハ其原價ヲ償ハシメ更ニ貸與スヘシ

第五條

一 就學牌製造ノ費用支出ハ學區内ノ適宜タルヘシ

第六條

就學牌雛形

表

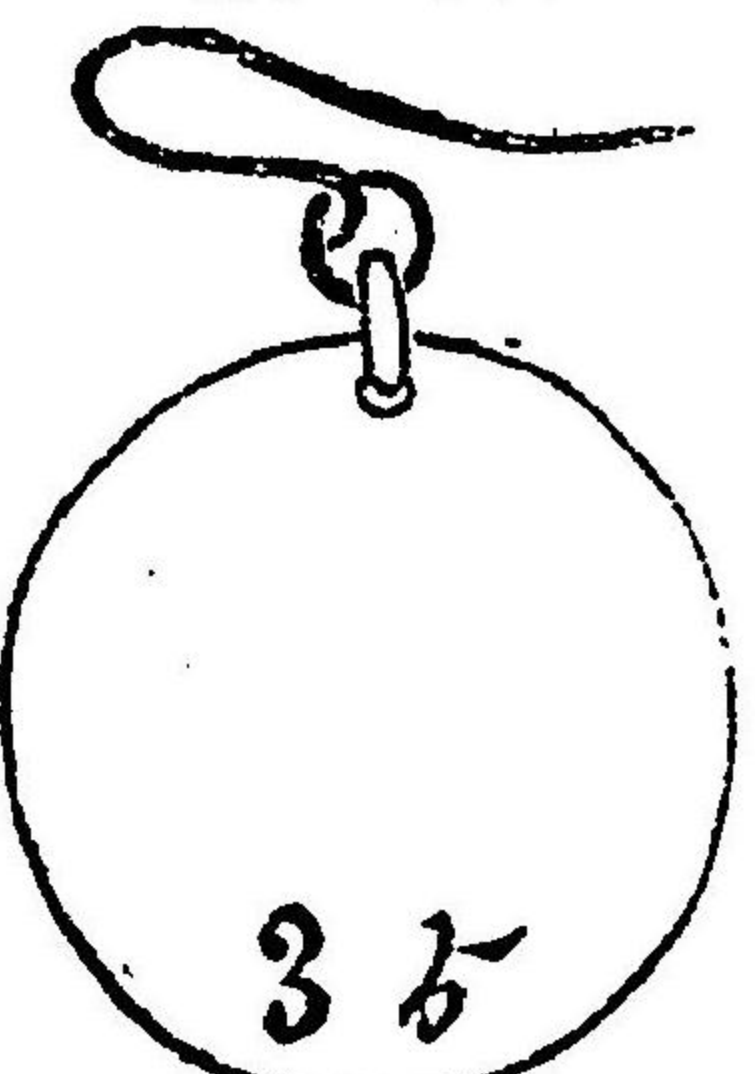
上等
小學生
就學牌



徑曲尺壹寸

表

地金
洋銀



裏

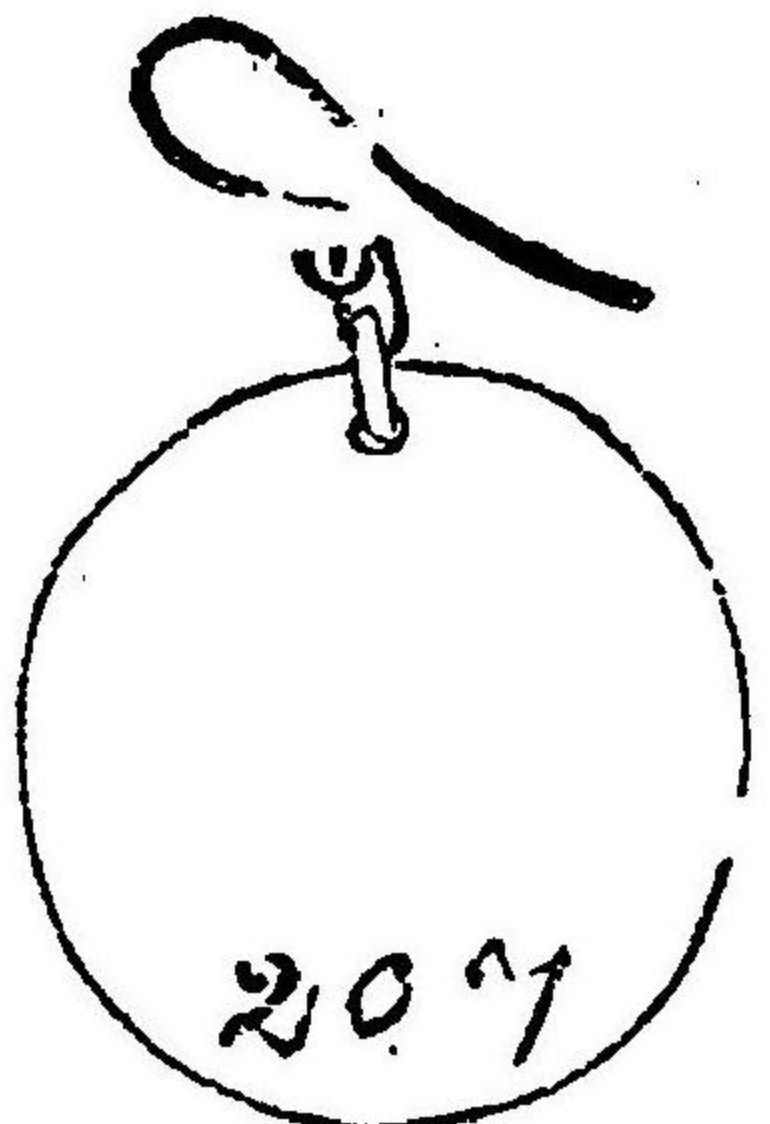
番号ハ
一校限
ノモ
トス

裏

下等小學
學生就牌



地金
真鍮



全前

徑全前

但表裏共文字ヲ嵌ス

乙第二百二十二号

明治丁年十月十一日

學區取締
學區幹事

今般公立小學校月報表別紙見本之通相定候條區内各學

校ニ於テ每月末爲取調翌月十日限本應第五課へ可差出
此旨相達候事

但レ用紙ハ第五課ヨリ下付候儀ニ付現今設立ノ校數
ニ應レ受取方可申出事

明治 年 月 愛知縣 第 中學區 第 區 郡 村 第 番小學 學校月報表

學子資金元受之部

同仕拂之部

授業料	区内集金	貸金利子	寄附金	補助金	不用品拂代	雜金	前月越高	合計	差引殘金	資本金	不動產
教員給	小使給	書籍費	器械費	營繕費	薪炭費	校舎借費	雜費	合計	差引不足金	物品寄付	

姓名	等級	教員	就學	內學			外學			就學			齡學		
				合	女	男	合	女	男	合	女	男	合	女	男
上 等 小 學 生 徒															
合計															
級八 級七 級六 級五 級四 級三 級二 級一															
女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男															
姓主 學校															
姓名 者 校															
下 等 小 學 生 徒															
級八 級七 級六 級五 級四 級三 級二 級一															
女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男 女男															

乙第二百六十四号

明治十年十二月七日

今般學區職制章程別冊之通改定候條此旨相達候事

學區取締

學區幹事

明治十年十二月改定

學區職制章程

學區職制

學區取締

憲法典令ニ遵ヒ學制ノ趣旨ヲ奉シ教育上百般ノ事ヲ掌リ總テ其責ニ任ヌ例規章程アル學務ハ便宜整理スルヲ得

學區幹事教員ノ勤惰能否ヲ審案具狀スルヲ得

學校係進退増減ハ其勤惰能否ヲ審案シ適宜處分スルヲ得

學事會議ノ代議員タルヲ得

學區幹事

學區取締ヲ輔ケ區内百般ノ學務ニ參與スルヲ得

學區取締不在ノキハ其職掌ヲ代理スルヲ得

學事會議ノ代議員タルヲ得

學校係

學區取締ノ指揮ヲ受ケ學校内ノ庶務ヲ掌ル

教員生徒ノ勤惰良否ヲ查察スルヲ得

學區事務章程

凡ソ區内ノ學務縣廳ノ裁可ヲ乞フヘキモノアリ適宜專行スヘキモノアリ分ツテ上下兩款トス

上款

第一條

中小學區分合ノ事

第二條

本分小學校私立學校開設移轉及ヒ廢停願ノ事

第三條

學校新築及ヒ敷地願ノ事

第四條

仁惠學校夜學校等開設移轉及ヒ廢停願ノ事

第五條

學資賦課法及ヒ融通法ヲ設クル事

第六條

金穀物品寄附願ノ事

第七條

願濟ノ寄附金停滯處分ノ事

第八條

學校生徒定期試験臨時試験及ヒ大試験ノ事

第九條

就學強^ク促法施設ノ事

第十條

小學正課時間伸縮及ヒ休業ノ事

第十一條

小學教科中ニ女紅ヲ設ル事

第十二條

教員病氣療養願死亡届及ヒ服忌引籠届ノ事

第十三條

公費貸費ヲ償還シ能ハサル教員處分ノ事

以上ノ條件ハ縣廳へ具狀シ裁可ヲ得テ處分スルモノ

トス

下款

第一條

學資蓄積法及ヒ貸付法ヲ設ル事

第二條

區内ノ學資出納公示ノ事

第三條

學校所有ノ動不動産管守保存法ヲ設クル事

第四條

小學師範生徒募集人名届ノ事

第五條

學校開業届ノ事

第六條

不就學ノ者督勵ノ事

第七條

學校教場増減及ヒ脩理ノ事

第八條

私立學校取締ノ事

第九條

吏員教員病氣届ノ事

第十條

學校小使進退ノ事

第十一條

學校内例規アル賞罰ノ事

第十二條

學校書籍器械調製及ヒ不用物品賣却ノ事

第十三條

學校出納表揭示報告ノ事

第十四條

願濟ノ廢校處分ノ事

第十五條

學校生徒月末試験ノ事

第十六條

試驗定日報告ノ事

第十七條

臨時試驗大試驗人名及口賞譽人名揭示ノ事

第十八條

教員生徒等傳染病ニ罹ル者處分ノ事

第十九條

學校教場試驗場等參觀人取扱ノ事

第二十條

學校勤惰簿調製ノ事

第二十一條

學齡調査簿ヲ設クル事

以上ノ條件ハ適宜專行スルヲ得ルト雖モ事ノ緩急ヲ

量リ顛末ヲ縣廳ヘ具申スルモノトス

右實際差支アルニ於テハ臨時改正スルモノトス

乙第二百六拾七號

明治十年十二月八日

區長

學區取締

這回各區戸長へ四等學區取締兼務申付候處月俸之儀ハ
本務ヲ以テ給與候條右ハ本縣甲第百六十九號達月俸規
則第八條ノ限ニ無之儀ト可相心得此旨相達候事

乙第貳百六拾八號

明治十年十二月八日

學區取締
學區幹事

小學教員職名ハ則チ其技倆ノ差等ヲ定メ候モノニテ隨
テ月給ノ多寡モ可有之右ハ昨九年當縣第百二拾三號布
達之通ニ候得共實際ノ事情ニ由リ該給額増減ヲ要セ
テハ自然差支候向モ有之哉ニ相聞ヘ候ニ付而ハ自今止
ムヲ得サル分ニ限リ學校ト教員ノ間ニ於テ示談ノ上便
宜結約候儀不苦候條爲心得此旨相達候事
但職名ハ妄ニ黜陟不相成義ト可心得事

○兵事

第十二號

明治九年一月廿二日

昨八年太政官第百九十二号海陸軍刑律改正公布中未葉
別表之通被相改候事

將校	閏刑	下士	閏刑	卒夫	閏刑
自裁		死刑		死刑	
	流刑		流刑		流刑
	閉門半年後 奪官	徒三年		徒三年	
奪官		徒二年		徒二年	

	回籍	閉門半年後 回籍	徒一年	戒役 百五日	黜等 錮二十日	徒一年	戒役 百五日
閉門九十八日			降等半年		降等 錮州五日 一年半	杖三十 錮二十日	
閉門四十九日			降等一年			杖三十 錮二十日	
	停官	閉門四十二日 後停官	降等一年半			杖四十 錮三十日	
	降官		降等一年半			杖三十 錮二十日	
			降等一年			杖三十 錮二十日	
			降等半年			杖三十 錮二十日	
閉門九十八日						杖三十 錮二十日	
閉門四十九日						杖三十 錮二十日	
閉門二十五日						杖三十 錮二十日	

第四百四號

明治九年五月十八日

西園區府長

左之通被達候條此旨相達候事

達第六十六号

徵兵令参考第二拾條別紙之通改正候條此旨相達候事

明治九年四月二十日

陸軍卿山縣有朋

(別紙)

徵兵令参考第二十條改正

本令同章第五條ニ示シタル文部ノ生徒ハ外國語學 英語
佛語

獨語ヲ學ビ三ヶ年間ノ教科ヲ卒業シタル以上並ニ專門

學修業ノ者又文部省直轄師範學校及ヒ各地方設置ノ公立師範學校ニ入リ修業一期六ヶノ課程ヲ卒リ其證書ヲ得タル以上ノ生徒及全期卒業ノ證書ヲ得タル者並ニ該學校ニ於テ其試験ヲ經上第ノ證書ヲ得タル者及文部省囑任學校長教員ハ免役ニ屬スヘキハ勿論省使廳府縣其他公私學校ノ生徒ハ都テ文部ノ生徒ニ比較シ外國語學三ヶ年間ノ教科ヲ卒業シタル生徒ニ相當ノ者或ハ專門學修業生徒ニ相當ノ者及中學教科ヲ卒ハル者ハ免役ニ屬スヘシ因テ本令第六章第十三條ノ例ヲ踐ニ徵兵連名簿調ノ時各自證書ヲ出サシムヘシ

但即今文部ノ學則ヲ以比シ雖キ土地柄或ハ國學其他學則未定ノ馬醫術等ノ如キ判然分界ヲ付ケ難キ者ハ總ヘテ徵兵連名簿ニ載セ徵兵署開設ノ時各自其修業履歷並ニ教師ノ證書ヲ以申立ツヘシ

第百五號

明治九年五月十八日

陸軍省

左之通被逕候條此旨相達候事

達第百六十九號

府 縣

各兵隊下士兵卒共徵兵令ニ照シ召募スル者ヲ除之外府縣貫屬替或ハ養子及ヒ離縁並族籍交換改姓名等有之節

ハ其管轄廳ヨリ直ニ本人所管ノ鎮臺へ近衛隊教導團編入之者ハ本省へ可届出旨去ル六年布第百二十六號ヲ以相達置候處右ハ昨八年布第六拾八號達書ニ準據ヒ近衛鎮臺若クハ教導團等總テ本人所管之廳へ可届出候尤準士官以上並文官出身ノ者ハ是迄之通本省へ可届出儀ト可心得此旨更ニ相達候事

但隊外下士卒及ヒ諸武學生徒之儀ヨ本文同様可相心得且總テ届出之節ハ本人官名及ヒ奉職スル所ノ廳名隊名生徒ハ其校名等必ス記載可致候事

明治九年四月廿五日

陸軍卿山縣有朋

第百八拾九號

明治九年八月廿九日

來ル明治十年徵兵年齡計算之儀相達置候處徵兵令參考第十七條第二式年齡計算表別紙之通リ改正相成候趣陸軍省ヨリ被達候條此旨相達候事

第百二十號

徵兵令參考第十七條中第二式年齡計算表別表之通リ改正候條此旨相達候事

但安政三丙辰年二月十六日ヨリ同月末日迄出生之者ハ來明治十年徵募ニ令應候儀ト可相心得候事

明治九年八月廿二日

陸軍卿山縣有朋代理

陸軍少輔大山巖

(別表)

徵兵令參考

第二式

年齡計算表

但此表明治十年ヲ以標目トナス

生年	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	正
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
明治九年一月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十九年十一月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十九年十一月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
明治十一年一月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十年十一月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十年十一月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

乙第三十一號

明治九年十一月八日

逕行免狀ヲ所持スル兵卒川支等ニテ滞在ノ時証書ヲ與
 フル事郡治事務章程及勤務心得ニ有之候處更ニ軍人軍
 屬處分濟歸縣之途中疾病等之儀ニ付陸軍省ヨリ別紙之
 通被達候條爲心得此旨相達候事
 達第百六十七號
 府 縣

軍人軍屬處刑濟歸縣ノ途中疾病等ニテ無據滞留スル者
 ハ其區長ニテ賄ヲ受クヘキ旨申付旅次證書下付候處紙
 背ニ區長ノ証書アリト雖モ之ヲ審覈スルニ或ハ怠惰或
 ハ病ニ托シ徒ヲニ淹滞スル者間々有之甚以テ不都合ノ

至リニ候條自今病氣事故等ニテ無據滯留シ旅費不足ニ
及ヒ候旨^區長へ申出候ハ、事實篤クト審査ヲ遂ケ病氣
ハ醫師ノ診斷書ヲ取リ相違無之候ハ、止宿食料費用ヲ
一時立替置キ其旨趣並入費金額等証書ノ紙背へ詳ヲカ
ニ記載檢印ヲナシ本人へ附與スヘシ萬一詐譌等申立ル
乎又ハ強談等ニ及フ者アルヤ^區長ヨリ該廳へ申出サ
セ其段本人所管廳へ通報可致此旨杜達候事

但本文旅次証書ハ來ル十二月一日ヨリ別紙之通改正
候條以後本人歸^府ノ上^區長へ出サシメ^區長ハ^府廳へ
差出シ^府廳ヨリ右証書下付致シ候官廳へ返戻可致尤

立替ノ金員ハ其官廳ヨリ償却ニ可及候事

明治九年十一月二日

陸軍卿山縣有朋

用紙^府紙四ツ切

何^府縣ノ者書式

何^府縣士族本^府民
元近衛(某^縣邊)歩兵何^縣隊第何^大隊第何^中隊
或騎炮工^部軍兵第何^大隊(第何^小隊)官或ハ兵卒
姓 名

右之者今度處刑滿期歸^府申付何所ヨリ
其^縣邊或ハ^某營所^某府^縣迄 何百何十里一日行程十里詰旅費一日金

至リニ候條自今病氣事故等ニテ無據滯留シ旅費不足ニ
及ヒ候旨^{區長}へ申出候ハ、事實篤クト審査ヲ遂ケ病氣
ハ醫師ノ診斷書ヲ取リ相違無之候ハ、止宿食料費用ヲ
一時立替置キ其旨趣並入費金額等証書ノ紙背へ詳ラカ
ニ記載檢印ヲナシ本人へ附與スヘシ萬一詐譌等申立ル
乎又ハ強談等ニ及フ者アルハ^{區長}ヨリ該廳へ申出サ
セ其段本人所管廳へ通報可致此旨^{陸軍}候事
但本文旅次証書ハ來ル十二月一日ヨリ別紙之通改正
候條以後本人^府ノ上^{區長}へ出サシメ^{區長}ハ^府廳へ
差出シ^府廳ヨリ右証書下付致シ候官^府廳へ返戻可致尤

立替ノ金員ハ其官^府廳ヨリ償却ニ可及候事

明治九年十一月二日

陸軍脚山縣有朋

用紙程村紙四ツ切

歸隊ノ者(式)

近衛某鎮(邊)歩兵何^府隊第何大隊第何中隊
或^府廳砲工^府隊兵第何大隊(第何小隊)

官或ハ兵卒 姓

名

右之者今度處刑滿期歸^府申付何^府所ヨリ
某^府廳或ハ某^府營所某^府縣迄 何百何十里一日行程十里詰旅費一日金

拾八錢八厘合計金何圓何拾何錢何厘相渡シ本日當地
出立順路ヲ應到着ノ上ハ早々戸區隊長へ此證書ヲ差出ス
可シ若シ途中ニ於テ病氣故障等ニテ無據帶留シ旅費
不足ニ及フ時ハ其所戸長へ申出止宿食料賄ヲ受ケ右
滯留ノ事由并驛々入費金額ニ詳細紙背へ記載證印ヲ
受ケ尤病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス可シ若シ故ナク滯
留スル者ハ相當ノ罰科ニ可被處此旨堅ク可相守者也

明治九年 月 日
所 管 廳
印

乙第四拾一號
明治九年十一月二十日

後備軍服役中之者他家養子或ハ分家并常備兵服役中
者本籍轉居等總テ本人身上ニ關スル事件ハ徵兵令ハ勿
論其他追々達之次第ニ有之候處間ニハ順序ヲ不經願屆
書等直ニ鎮臺へ差出向ニ有之不都合ニ候條向後右様之
次第無之様厚可致注意此旨相達候事

乙第四十四號
明治九年十一月廿七日

徵兵令参考別紙之通改正相成候旨陸軍省ヨリ達相成候
條此旨相達候事
達第百九拾三號

徵兵令參考中別紙之通改正候條此首相違候事

明治九年十一月二十一日

陸軍卿山縣有朋

(別紙)

徵兵令參考改正

第十四條 本年常備補充ノ命ヲ蒙リ入營以前若シ過テ陸軍ノ番号割符ヲ誤毀遺失スルキハ其趣速ニ管廳ニ届出管廳ニ於テ篇ト事由ヲ取糺シ全ク過失ニ係ルハ直ニ所管鎮臺ヘ移文シ新製ヲ請フヘシ尤途中或ハ營所外滯在中ニ在ルキハ附添區長或ハ戸長ニ於テ其事

由テ詳ニシ直ニ鎮臺或ハ其營所ヘ上文ノ手續ヲナスヘシ

第十七條 本令第六章第十三條ニ示シタル毎年十二月廿五日限り本省ヘ送達ノ徵兵連名簿ハ府縣款各ノ郵便ニ第一式ノ如ク認メ年齡計算ハ第二式表面ニ揭示シタル如ク徵募ニ應スヘキ年ノ一月ニ至リ二十一歳未滿二十歳以上ニ相當スル者ヲ其生年ニ遡リ取調フヘク最免役ニ適スル者ハ云々

第二十六條 本年徵兵云々

但検査ノ節病氣事故等ニテ不參又ハ入營延期ニテ

翌年ノ徵兵ニ廻スヘキ者ハ即チ其時ヨリ翌年入營
期限迄ニ養子分家ハ勿論官吏或ハ第廿條ノ例ニ據
リ免役ニ適當スル者ト雖モ兵役ニ於ハ一切之ヲ免
サス尤祖父死シ其孫嗣子トナリ又ハ戸主死シ其後
繼タル者ハ此限ニ非ス

甲第廿号

明治十年一月廿五日

徵兵連各辨ヘ登記之者他管下ヘ寄留或ハ出稼他行致候
者ハ其年二月十五日以前ニ必歸家致居候筈之處間ニ者
無其儀檢査濟翌日ヨリ追々復歸之旨届出或ハ其所在ヲ
詳ニモサル者等之甚不相濟事ニ取右ハ一旦檢査済ニ

相成候共逐年其束縛ヲ免レザル儀ニ付以來本人ノ勿論
其父兄タル者右等ノ次第篤ト相辨徵募期限迄ニ必歸家
爲致候様一層注意可致此旨而達候事

乙第七號

明治十年 月九日

徵兵入費概則改正相成候旨別紙ニ通被達候爲心得相達
候事

(別紙)

乙第百九號

府 縣

徵兵入營以前ノ經費交付方ノ儀ニ付本年三月乙第三拾三
號ヲ以相達候ニ付テハ同年二月陸軍省第拾八號達シ徵兵

入費概則改正更ニ別冊ノ通相定候條自今右ニ照準可取
計候尤受取方ノ儀ハ同年^{八月}乙第六拾九號内務大藏兩省
達ノ通可心得此旨相達候事

但本年七月以降補充兵入營以前入費既陸軍省達徴兵
入費概則ニ照シ仕拂濟ノ分ハ其儘据置經費勘定帳へ
編入可差出事

明治九年十二月廿七日

大藏卿大隈重信

(別冊)

徴兵入費概則

第一條 入營ノ前徴兵ニ附添區戸長等ノ旅費ハ一般旅

費定則ヲ以旅費等級五等ヲ給スヘシ

但徴兵議員並徴兵ニ附添區戸長検査場及抽籤場等
へ往復スル旅費ハ官ヨリ給セサルヘシ

第二條 徴兵ハ各自其住所ヨリ検査場及抽籤場等へ往
復ノ旅費十里詰日當金廿四錢ヲ給シ若シ同地ニ滞在
セシムルキハ日當金廿二錢ヨリ多カラサル金額ヲ適
宜支給スヘシ

但近方片道三里未滿ハ旅費ヲ不給三里以上六里未
滿ハ日當ノ半數六里以上十一里未滿ハ一日ノ日當
ヲ給ス^{三里未滿ト雖ハ一泊セシムルハ}十里以外ノ端

里數ハ一里以上六里未滿ハ日當ノ半數六里以上ハ全數ヲ給スヘシ 總テ一里未滿ハ別捨ヘシ

第三條 検査場ヨリ直ニ抽籤場ニ至ル徴兵ハ甲乙丙ノ里程ヲ通計シ第二條ノ旅費ヲ給スヘシ

第四條 抽籤又ハ検査場等ニ於テ自己ノ情實ヲ申立テ免除ニ屬スル者ノ旅費並ニ滞在日當ハ給セス

第五條 徴兵其府縣管外ニ在ル營所エ入營ノ旅費ハ拾里晴日當金四拾錢ヲ給スヘシ尤近方三里以上六里未滿並ニ滞在日當及管内ノ營所ニ至ル旅費ハ第貳條ニ準スヘシ

第六條

備醫ハ其術業ノ優劣ヲ以テ四等ニ分テ第一等一日金壹圓第貳等金七拾五錢第三等金五拾錢第四等金三拾錢ヲ給シ若シ軍醫ニ隨ヒ他郷ニ出ルルハ第壹條ニ準シ旅費ヲ給スヘシ

第七條

學生ハ記録ノ閑劇ニ因テ一日金三拾錢ヨリ多カラサルノ給料ヲ以テ適宜支給シ都合ニ因リ甲場ヨリ乙場ニ要スルルハ第壹條ニ準シ旅費ヲ給スヘシ

第八條

用使ハ徴兵署ニ貳人検査場ニ壹人ヲ要ス尤檢丁三百人以上ハ壹人ヲ増スヘシ右雇料トノ一日金拾貳錢五厘ヨリ多カラサルノ金員ヲ適宜給スヘシ

第九條 検査場ヲ社寺ニ設ルルハ其廣狹ニ應シ一日金
五拾錢ヨリ多カラザルノ席料ヲ適宜給スヘシ

第十條 徴兵署及検査場固有品ハ別紙物品表之通相心
得徴兵解署ノ上ハ其府縣ニ預リ若翌年ニ至リ自然毀
傷アルルハ修復ヲ加フヘシ若又一時ノ假借ニテ辨給
スルルハ相當ノ借料ヲ給スヘシ

第十一條 徴兵署並ニ各所検査場ニ於テ徴兵使或ハ副
使ヨリ定則外ノ物品ヲ要スルルハ其旨明細表備考ニ
記載スヘシ

第十二條 徴兵入營及検査抽籤場途中川留雪支病氣等

ニテ延滞ノ節ハ其所戸長ノ証書及醫師ノ診斷書アル
モノハ増日數ノ分滞留日當ヲ給ス且疾病足痛等ニテ
歩行難相成モノハ醫師ノ診斷書及其地通運會社ノ受
取証書ヲ添テ申出ルルハ車駕賃ヲ給スヘシ尤藥種料
醫師ノ謝儀等ハ自辨タルヘシ

第十三條 右入費勘定仕上ハ該年度經費勘定帳額外常
費徴兵費ノ一大科目ヲ設小科目ハ本年^{十月}乙第九拾號
當省達ニ照準シ勘定帳明細表共明治八年^{八月}第百五拾
號公達之通相心得調成スヘシ

第十四條 前條ノ通定ムルト雖モ各處ノ便宜ニヨリ此

概則ニ基キ金額適宜減少ノ方法ヲ設ルハ苦シカラズ

徵兵署及検査場物品表備考

備考	徵兵署										検査場									
	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限					
一固用品ノ保存年數ハ各地品物ノ精粗ニ從テ異ナルアリト雖モ採メ年期ヲ立テ其長短 際ニ讓ル 一消耗品ハ總テ百人ヲ以テ比較シ百人以上ノ端數二十五人迄ハ四分ノ一二十五人以上 ハ半數五十人以上ヨリ全數ヲ給ス百人以内ノ時モ此例ニ準ス	人別検査表板木	四	十五年	身幹度尺	一	五年	茶	但一斤ニ付金 廿錢乃至卅錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	テーパー	十八脚	十五年	寢臺並蒲團枕	二脚	十五年	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至卅錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	椅子	十八脚	十五年	テーパー	但六人掛	十五年	筆	但三ヶ年持	三挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	墨硯箱	六	十五年	椅子	八脚	十五年	朱墨	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	朱硯箱	二	十五年	墨硯箱	三	十五年	墨	但三ヶ年持	三挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	小火鉢	六	十五年	朱硯箱	二	十五年	人別 検査 表美濃紙	但三ヶ年持	三挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	朱肉入	一	十五年	朱肉入	一	十五年	筆	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	水入	三	十五年	大火鉢	三	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	糊入	三	十五年	小火鉢	五	十五年	蠶簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	狀刺	四	十五年	水入	二	十五年	西ノ 内紙	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	幕	壹	十五年	水手 桶	一	十五年	半紙	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	茶器具	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	消耗品	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	茶器具	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	消耗品	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	茶器具	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	茶器具	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	茶器具	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					
	茶器具	壹	十五年	茶器具	一	十五年	筆算 試驗簿	但全上	二挺	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿	炭	但一斤ニ付金 廿錢乃至三十錢	一日分 勿					

徵兵署及検査場物品表備考

徵兵署		検査場	
固	有	固	有
品目	員數	品目	員數
保存期限	保存期限	保存期限	保存期限
別検査表板木	十	身幹度尺	一
一ツル	四	寝臺並蒲團枕	一
子	十八	テ一ツル	二
硯箱	六	椅子	八
硯箱	二	硯箱	三
火鉢	六	硯箱	二
肉入	一	朱肉入	一
入	三	大火鉢	三
入	三	小火鉢	五
刺	四	水入	二
器具	壹	糊入	二
器具	壹	帚	壹
ノ内紙	二十	茶器具	一
紙	二十	水洗桶	一
算試験簿	該府縣紙 十五枚	消	耗
簿	全大野紙 十五枚	品目	品
但三ヶ年持	六	人別 検査表 美濃紙	五
墨	二	墨	三
但全上	四	朱墨	二
但一斤ニ付金 二十錢乃至三 十錢	一日分 十 分	炭	四
		茶	但一斤ニ付金 廿錢乃至卅錢
		炭	一日分 十分

一固用品ノ保存年數ハ各地品物ノ精粗ニ從テ異ナルアリト雖モ其年數ヲ立テ其長短ハ定テ實
際ニ讓ル
一消耗品ハ總テ百人ヲ以テ比較シ百人以上ノ端數二十五人迄ハ四分ノ一二十五人以上五十人迄
ハ半數五十八人以上ヨリ全數ヲ給ス百人以内ノ時モ此例ニ準ス

一	同	全	土	肉	人	一	全	十
二	同	全	土	墨	縣	三	全	十
三	同	全	土	縣	縣	八	全	十
四	同	全	土	縣	縣	八	全	十
五	同	全	土	縣	縣	八	全	十
六	同	全	土	縣	縣	八	全	十
七	同	全	土	縣	縣	八	全	十
八	同	全	土	縣	縣	八	全	十
九	同	全	土	縣	縣	八	全	十
十	同	全	土	縣	縣	八	全	十

乙第三十三號

明治十年二月一日

各古屋衛戍部署別紙之通被定候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

各古屋鎮臺

各古屋衛戍部署別冊之通相定候條此旨相達候事

明治九年七月廿一日

陸軍卿山縣有朋

(別紙)

各古屋衛戍部署

一各古屋ノ衛戍ハ歩兵一大隊ヲ以テシ内若干ノ隊伍ヲ以テ金庫武庫等ヲ守衛セシム
凡ソ衛兵ハ別ツテ四ト爲ス則チ左ノ如シ

其一 衛戍主衛

其二 守衛兵

其三 分遣哨兵

其四 守兵

一 衛戍主兵ハ衛戍中最大ノ隊伍ニシテ名古屋内樞要ノ所ニ置キ以テ諸衛兵ノ首部ト爲シ名古屋中一般ノ靜謐ヲ維持スルヲ以テ其任トス故ニ兇徒ヲ鎮壓シ若シ地方警視部力能ハスシテ助力ヲ請フコトアル時ハ其請ニ應シ之ヲ援助スル等總テ不虞ヲ警シムルニ供スル者トス

一 主衛中ヨリ一隊ノ選哨ヲ出ス其人員概チ兵卒四名ニシテ下士一名之ヲ導キ時々衛戍線内ノ諸哨處ヲ巡行ス

一 守衛兵ハ則チ警備ノ哨兵ニシテ金庫武庫等ニ置ク

一 分遣哨兵ハ衛戍線外ノ哨兵ニシテ處要ノ時ニ當テ之ヲ置ク

一 守兵ハ則チ控兵ニシテ各兵隊中翌日衛兵ノ勤務ニ當ル將校下士兵卒ヲ以テ之ヲ編制シ常ニ武装ノ準備ヲ爲シ緩急ニ應シ直ニ其哨處ニ發遣スル者トス

一 各種衛ノ兵ハ其名稱異ナリト雖モ其服役ハ皆同一ト

ス
 其勤務ノ方法隊伍ノ編制暗号ノ布達及ヒ夜巡邏哨整
 列分列式等ハ別ニ揭示ス
 一上條ノ方法ニ據リ名古屋衛戍ノ隊伍及ヒ其人員ハ則
 ナ左表ノ如ク部署配布ス
 但シ諸衛兵大尉ノ附属スル者ヲ一等トシ中少尉ヲ
 二等トシ下士ヲ三等トス

名古屋城衛戍諸兵隊部署及人員表

番兵數	喇吧卒	兵卒	伍長	軍曹	中少尉	大尉	哨地	衛兵區分		守衛兵	分遣哨兵	守兵	傳令
								衛戍主衛	儀仗衛兵				
一	二	四十	四	二	一	一	名古屋城内	金庫	三等	三	二	二	二
								武庫	一等	一	一	一	一
								火藥庫	二等	一	一	一	一
								各隊屯營		一	一	一	一
								衛戍司令部		一	一	一	一
								本部		一	一	一	一
										四	四	四	四
										五十六	五十六	五十六	五十六
										二	二	二	二

備考

備伏兵ハ平常之ヲ置ク場處ナドト雖モ其之ヲ要スルノ時ニ臨テハ衛戍ノ兵隊中ヨリ適應ノ人員ヲ出ヌテ法トス故ニ預メ其區畫ヲ設ク分遣哨兵亦然リ○鎮臺門番兵ハ衛戍主衛中ヨリ之ヲ出ス故ニ表中ニ掲ケス○傳令騎兵ハ衛戍司令ニ屬シ命令書翰使ヲ勤ム但シ騎兵ノ備ナキ所ニ在テハ砲卒ヲ以テ之ニ充テ或ハ歩卒ヲ役スル等便宜ニ任ヌ

一衛戍諸兵隊ノ司令官ハ佐官一名ヲ以テ之ニ任シ直ニ名古屋鎮臺司令長官ニ隸シ其僚屬ニ將校下士若干名ヲ置キ以テ衛戍ノ事務ニ任シ諸兵隊ヲシテ畫一ノ令ヲ守リ不虞ヲ警メ緩急ニ應シ直ニ寇賊ヲ禦クノ備ヲナサシム其人員左ノ如シ

衛戍司令官

佐官一名

同次官

大尉一名

同副官

中尉一名

同下副官

曹長一名

同書記

軍曹或
伍長 一名

一衛戍司令官ハ兼テ畫定スル守備ノ方略衛兵ノ部署哨兵番兵ノ布置ニ從ヒ衛戍線内ヲ警備スルヲ主務トス故ニ衛兵ノ部署等ヲ變スルハ必ス司令長官ヲ經由シ陸軍卿ニ上申シ其決ヲ取ルニ非レハ施行スルヲ許サス

衛戍次官ハ司令官ノ命ヲ奉シ衛兵ノ服務ヲ指揮シ軍
紀風紀ノ監視ヲ爲シ晝日ハ諸哨所ヲ巡視シ人員ヲ檢
査シ勤惰ヲ督シ又夜間モ時ヲ以テ巡視スル晝日ノ如
クス

衛兵勤務中將校下士及兵卒法ヲ犯シ軍律ニ係ル者ハ
之ヲ司令長官ニ申告シ懲罰ニ係ル者ハ司令官自ラ適
當ニ之ヲ處斷シ該隊ニ達ス

日々ノ定例報告及ヒ臨時ノ報告ハ定期ヲ以テ之ヲ司
令長官ニ呈シ長官ハ之ヲ取纏メ一月毎ニ陸軍卿ニ呈
スハシ

一衛戍諸兵隊ノ尉官ハ其兵種ヲ論セス其官等ト停年ト
ノ順次ニ從テ一列ノ週番順次ヲ立ツ之ヲ巡察將校ト
云フ其人員左ノ如シ

大尉

一名

中少尉

二名

週番巡察將校ハ衛戍司令官ニ屬シ衛兵ノ監視ニ任シ
晝夜時々諸哨所ヲ巡察シ其勤惰等ヲ視察シ自ラ其哨
所ノ帳簿ニ其時限姓名ヲ記シ之ニ捺印ス而テ巡察中
ノ事由ヲ細カニ衛戍司令官ニ報告ス其交代ハ毎日曜
日十二時ヲ以テ夜間ハ官舎ニ宿直ヒサレテ以テ勤

衛戍次官ハ司令官ノ命ヲ奉シ衛兵ノ服務ヲ指揮シ軍紀風紀ノ監視ヲ爲シ晝日ハ諸哨所ヲ巡視シ人員ヲ檢査シ勤惰ヲ督シ又夜間モ時ヲ以テ巡視スル晝日ノ如クス

衛兵勤務中將校下士及兵卒法ヲ犯シ軍律ニ係ル者ハ之ヲ司令長官ニ申告シ懲罰ニ係ル者ハ司令官自ラ適當ニ之ヲ處斷シ該隊ニ達ス
日々ノ定例報告及ヒ臨時ノ報告ハ定期ヲ以テ之ヲ司令長官ニ呈シ長官ハ之ヲ取纏メ一月毎ニ陸軍卿ニ呈スヘシ

一衛戍諸兵隊ノ尉官ハ其兵種ヲ論セス其官等ト停年トノ順次ニ從テ一列ノ週番順次ヲ立ツ之ヲ巡察將校ト云フ其人員左ノ如シ

大尉

一名

中少尉

二名

週番巡察將校ハ衛戍司令官ニ屬シ衛兵ノ監視ニ任シ晝夜時々諸哨所ヲ巡察シ其勤惰等ヲ視察シ自ラ其哨所ノ帳簿ニ其時限姓名ヲ記シ之ニ捺印ス而テ巡察中ノ事由ヲ細カニ衛戍司令官ニ報告ス其交代ハ毎日曜日十二時ヲ以テシ夜間ハ官舎ニ宿直ヒサヒテ以テ勤

務ノ外ハ外出スルヲ許サス

乙第四十号

明治十年二月八日

徵兵令第四章第五條へ掲載有之通検査呼出ノ際ニ當リ
病氣ニテ出場難致者ハ徵兵令参考追加第四十八條ニ示
シタル診斷書雛形ニ準シ記載候様可取計其他不得止事
故有之萬一免役願出ル歟又ハ徵兵志願ノ者等ハ總テ徵
兵令及参考等ニ照準シ願書爲差出候様注意可致爲念此
旨相達候事

但検査日限差迫リ候條本文ニ關スル願書ハ検査場へ
差出候様可取計候事

乙第二百二號

明治十年四月廿五日

後備軍召集旅費等之義左之通陸軍省ヨリ被達候條爲念
此旨相達候事

達甲第十三號

府 縣

徵兵入費ノ儀明治十年ヨリ大藏省ニ於テ仕拂候ニ付右
入費概則九年同省乙第九号達ノ通改正相成候ニ付テ
ハ後備軍復習ノ爲召集及生徒旅費ノ儀別紙概則ニ照準
シ繰替給與取計可申此旨相達候事

明治十年四月十七日

陸軍卿山縣有朋代理
陸軍中將西郷從道

(別紙)

後備軍及生徒旅費概則

第一條 後備軍復習及非常召集ノモノ其他華士族平民諸學校及教導團生徒志願入校ノ旅費ハ十里詰金四拾錢滞在日當金貳十貳錢ヲ給スヘシ

但十里以上ノ端里數滿壹里ヨリ一日分給スヘシ

第貳條 其府縣管內ニ在ル營所ハ一日十里詰日當貳十四錢ヲ給スヘシ尤近傍ハ管内外ノ別ヲ六里以上十里未滿ハ金二十四錢滿五里ハ金十二錢ヲ給スヘシ若シ一泊スルハ五里未滿ト雖モ金十六錢ヲ給スヘシ

乙第百四拾一號

明治十年七月十四日

徵兵令發行以來右取調ノ儀屢相遺憾ニ付兼テ熟知可有之答ニ候得共萬一誤解等有之候テハ自然進達期限ニ差響キ不相濟儀ニ候條爲念別紙下調心得書下渡候條精々注意シ疎漏等無之様可致此旨相達候事

第一條

來ル明治十一年常備國民軍トモ年齡相當ノ者來ル九月十五日迄ニ雛形書式ノ通届書用紙野戸長へ差出シ戸長ニ於テハ戶籍簿ニ照シ脱漏ナキヲ訂シ之ヲ各種ニ分册致シ徵兵令規則案文ノ通認メ九月廿五日迄ニ區長へ差出シ區長ニ於テハ之ヲ調査シ常備年齡ノ者ノミ一區内

總計シ左ノ通九月三十日迄ニ可届出候事

明治十一年徵兵適齡之者 何萬何千何百人

内

檢丁

何百人

事故

何百人

戸主

何百人

嗣子

何百人

癡疾不具等

何百人

右ノ通相違無御座候也

明治十年九月

第何區々長

何

某

印

縣令宛

第二條

本年十月五日ヨリ徵兵掛主任ノ者發縣各區進行實地及
調査候條徵兵令參考第十八條書式ノ通區別相立連名簿
及免役連名簿共出張ノ者へ可差出候事

但下検査日割ハ出張ノ者ヨリ通知可致ニ付連名簿及
免役連名簿ハ各區適宜ノ野紙ニ認メ置キ追テ下検査
相濟次第本野紙可下渡候事

第三條

下検査場ハ檢丁ノ多寡土地ノ遠近ニ依リ一區ニ兩三ヶ

所設置スルモ妨ケナントス尤右場所確定ノ上來ル九月廿五日迄ニ可届出候事

第四條

常備適齡ノ内宿痾及定尺未滿ノ者ト雖モ一應下検査可致候事

第五條

年齢計算ノ儀ハ徵兵令参考ニ照準シ來ル明治十一年分左ノ通可相心得候事

安政四年丁巳三月一日ヨリ	出生ノ者	徵	兵
安政五年戊午二月末日迄	出生ノ者	十七	年
文久元年辛酉一月一日ヨリ	出生ノ者	十七	年
同 年十二月末日迄	出生ノ者	十七	年

天保九年戊戌二月一日ヨリ 萬延元年庚申十二月末日迄 出生ノ者 國民軍

但徵兵適齡ノ者ハ除之

第六條

二十年調常備適當ノ者届書案文

第何區何村何番地士族
某何男何職
某弟

何 某

誕生何年何月何日

右者來ル明治十一年一月ニ至リ何年何ヶ月相成候間此段御届申上候以上

年號月日 家主者 何 某 印

戸長 何某殿

第七條

二十年調ノ内 戸主實主附籍ノ 嗣子附籍人ノ 獨
孫 承祖孫 官員但等外四等以上ヲ云 教官教導職試補
兄弟常備服役ノ者但其年常備兵滿期可相成 除族
懲役實決一年以上ノ刑ヲ蒙リタル者 壯兵解隊ノ者
陸海軍生徒 學徒但一期六ヶ月卒業証
以上徵兵免役ト可相心得事

第八條

徵兵免役ノ者届書案文

戸主嗣子等總テ免役ニ
可屬ケ條ヲ記載スヘシ

第何區何町何番地士族
某何男何職

何某

誕生何年何月何日

右者來ル明治十一年一月ニ至リ何年何月ニ相成候處前
書之通御座候間此段御届申上候以上

年号月日

家主
ル者

何某印

戸長

何某殿

第九條

第八條各自免役届書ハ可成詳細ニ可認譬ハ兄弟服役ノ者弟何某何年何月ヨリ何鎮臺常備服役中ト認ム類ヲ云且此届書ハ免役箇條書ニ付免役連名簿ニ相添可差出儀ト可相心得候事

第十條

他管下ニ出寄留之者呼戻シ期限又ハ寄留地ニ於テ服役ヲ乞者等取糺之儀ハ徵兵令参考改正第二十七條ニ照準シ取調方注意スヘキ事

第十一條

國民軍并十七年調ノ儀ハ徵兵令参考第二十八條書式雖

形之通相認十一月十五日迄ニ悉皆進達可致候事
但野紙可下渡ニ付前以テ請取高可申出候尤一枚十六人ノ割ニ候事

第十二條

國民軍人員表左之通相認十一月十五日迄ニ可差出候事

明治十一年 愛知縣第何區國民軍表 但十三行野紙

主任役名 何 某 印

十七年	何千何百人	廿一年	何千何百人
十八年	何千何百人	廿二年	何千何百人
十九年	何千何百人		

以下四十歳迄右ニシ記載スヘシ
合計何萬何千何百人

第十三條

國民軍ハ譬へ出寄留又ハ奉職ノ者ト雖モ別簿ニ記載不
及總テ町村ノ順序ニ相認奉職又ハ出寄留等ノ箇條本名
頭書ニ揭示可致尤他管下ヨリ入寄留ノ者ハ其町村冊尾
ニ區別シ記載可致且入寄留ノ者ニ限り第十二條人員表
ニ計算不及候事

乙第七十九號

明治十年九月十日

徴兵下検査區戸長ニ於テ別取計候向モ有之哉ニ相聞

候處右ハ無用之手數ニ付本年乙第七十九號迄之通徴
兵掛主任ノ者派出之節區戸長立會下検査可致義ニ候條
爲心得此旨相達候事

但乙第四百一十一號第二條中第十八條トアルハ第十七
條ト更正候事

乙第貳百四號

明治十年十月一日

非常出兵又ハ戍兵交番等之節人馬遣之儀ニ付明治六年
四月相達置候所非常警備之爲メ警視以下巡查派出候節
モ右同様可心得此段相達候事

乙第二百拾號

明治十年十月五日

常備新兵入營之節附添人之儀別紙之通陸軍省ヨリ達有之候條此旨相達候事

但別紙ニ徵員トアルハ管内惣徵員ニシテ一區内ノ徵員ニ無之儀ト可相心得候事

達甲第三十號

府 縣

徵兵令參考第十條ニ當リ常備新兵入營之節附添戸長人員之儀是迄區々相成不都合不尠候條自今必ス徵員一群ニ付二名乃至三名ヲ限リ引纏メ入營可爲致候此旨相達候事

陸軍卿山縣有朋代理

陸軍中將西郷從道

明治十年九月二十九日

乙第二百七十四號

明治十年十二月十五日

常備兵及後備軍服役中之者身上ニ關スル願伺届書共割符番號記載之上可差出旨兼テ相達候處間ニハ番號登記無之ヨリ自然尋常之取扱ニ相成不都合不尠候條以後區戸長用樹等ニ於テハ一層注意シ必番號記載之上可差出様可取計此旨相達候事

但本文兵役中之者願書等ハ必三通可爲差出候事

號外

明治十年九月廿五日

別紙之通陸軍省ヨリ被達候ニ付此旨相達候事
達申第二十八號

鎮臺府縣

常備並補充兵服役中分家或ハ家各相續等願出ノ者其趣
意兵役免除ヲ願フニ非ヌ戸主ノ各義ヲ得ルニ止ル者ハ
徵兵令參考第五十一條ニ準シ取扱不苦候此旨相達候事

陸軍中將西郷從道

明治十年九月十八日

陸軍中將西郷從道

○禁令付警戒

第廿六號

明治九年二月十四日

近來 行幸之節御途中ニ於而突然儀仗内ニ衝入シ訴狀
建言書之類差出候者往々有之右ハ國律ニモ明載有之儀
ニテ甚以不相濟次第ニ候得共小民共事情切迫之餘、心
得違ニ依リ終ニ罪科ニ相觸レ候様ニテハ愍然之至ニ付
向後心得違之者無之様可致旨太政官今般公達之趣、有
之尤訴願建言等ハ規則ニ依リ其筋へ差出候得者取上可
相成儀ニ候條向後聊心得違無之様可致事

第三拾四號

明治九年二月廿七日

言路洞開下情上達之義ハ兼而被 仰出之首モ有之當縣
ニ於テモ追々相達置候處動モスレハ其素志ヲ果サス中
止候者モ有之哉ニ相聞ヘ自然上下隔絶民情不通暢之基
ト相成不相濟義ニ付自今ハ何事ニヨラス上下之裨益ト
心付候廉ハ無忌憚其旨趣明瞭ニ記載シ郵便ヲ以封書ヲ
進達候歟或ハ本人出廳親シク陳述候共各自之便宜ニ可
任萬一モ中間ニ在ッテ壅蔽等之事アラハ是亦委曲可申
出候尤其言故意ニ出テ誣告讒謗ニ涉リ刑事ニ觸レサル
様屹度注意可致此旨更ニ相達候事

第三拾五號

明治九年二月廿九日

本年太政官公布第壹號ヲ以改定律例第二百六十七條廢
セラレ同年內務省乙第九號ヲ以營洋取締懲罰之義達有
之付テハ不日方法取設ケ可相達候條條而相心得不都合
之者無之様精々注意可致此旨相達候事

第四十二號

明治九年三月九日

人民寶印之儀ニ付而者追々公布之首モ有之處兎角輕忽
ニ取扱候ヨリ諸証書取引等交際上往々不都合ヲ生シ遂
ニハ自己之禍害ヲ招クモ不勘儀ニ付不束之取扱決シテ
致間敷且從來戶籍帳簿ニハ各自之印影ヲ据置ト雖モ改
印等之節届方等閑之向モ有之ニ付自今其時々無遺漏印

影ヲ以可届出事

一印刻渡世之者ハ元ヨリ人ノ依頼ヲ受クルノ外無謂印
形ヲ摸刻製彫スヘカラサルハ勿論之處同業或ハ小間
物店等ニハ既ニ彫刻シタル其鑰印打込木印ノ類數顯
ヲ掲ケ販賣候者モ有之哉ニ相聞ヘ不都合ノミナラス
自然人民之弊害ヲ醸生スルノ基ニ付自今右様之品販
賣一切不相成事

第四十三號

明治九年三月十二日

藝娼妓渡世之者大抵父母ノ養育ヲ各トシ免許鑑札願出
候處往々他管内ヨリ一時寄留ノ婦女子等ヲ誘キ世話人

共屋主ト馴合相對ヲ以無頼ノ老婆等ヲ母親杯ト詐稱シ
願出候者有之甚以不都合ノ事ニ候以來右様之者於有之
ハ雇主ハ勿論本人世話人ニ至ル迄相當ノ處分可申付候
條心得違之者無之豫豫テ注意可致此旨相達候事

但向後本文渡世願出ノ者ハ家内人員活計向等逐一相
認可願出事

第六十二號

明治九年四月四日

本年乙第九號内務省達ニ基キ別紙之通賣淫罰則相定メ
來ル五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

賣淫罰則

第一條 娼妓ニ非シテ賣淫ヲナス婦女及ヒ媒合容止
スル者初犯ハ五圓再犯ハ拾五圓窩主初犯ハ二拾圓其
三犯以上ハ皆三拾圓ノ罰金ヲ科ス

第二條 若シ無力ニシテ罰金ヲ徴収ス可カラサル婦女
及ヒ媒合容止スル者初犯ハ一ヶ月再犯ハ三ヶ月窩主
初犯ハ二ヶ月再犯ハ四ヶ月其三犯以上ハ皆六ヶ月ノ
苦役ニ處ス

但シ父母年七十以上及ヒ癱篤疾等ニテ事實止ムヲ
得サル場合ニ於テハ臨時其情ヲ酌量シ之ヲ處分ス
ルコトアル可レ

第三條 若シ一家尊屬ノ指令ヲ受ケタル者ハ第一二條
ニ照シ止其指令者ヲ罰ス

第四條 罰金ハ五日内之ヲ徴収ス可シ若シ其金額ヲ完
納スル能ハサル者ハ其不足スル所ノ金員ヲ日數ニ換
ヘ以テ苦役ニ處ス

但シ苦役一日ハ金拾六錢七厘ニ當リ其一日ニ滿テ
サル數ハ之ヲ除ク

第五條 現行ヲ認メ得ストモ其證左ヲ得レハ此規則ニ
照シ處分ス可シ

第六十四號

明治九年四月六日

今般太政官第三十八號ヲ以テ帶刀禁令被 仰出候付テ
ハ心得違ノ者無之義ハ勿論ニ候處生來携帯スル護身ノ
利器ヲ脱却候テハ或ハ人命盜犯防禦ノ便宜ヲ失ヒ候哉
ノ顧念ヲ生シ候輩有之哉モ測リ難ク右ハ竊ニ

聖意ノ在ル處ヲ察スルニ此ニ防禦ノ便宜ヲ許セハ却テ
兇徒不良ヲ恣ニスルノ媒介タルノ憂モ有之苟クモ一般
ニ之レヲ廢セハ其刀劔携帯ノ者ハ即チ兇徒タルノ鑑別
トモナル可ク加之現今各縣警察ノ設ケモ稍々盛大ニ相
成リ人民保護上厚ク御注意ノ際ニ付強チ帶刀ヲ要スヘ
キ義ハ有之聞敷トノ御趣意ニモ可有之候條管下ノモノ

万一モ違犯拘引等有之候テハ第一 朝旨ニ背戾シニ
ハ一己ノ品行上ニモ關係シ不都合ノ事ニ付土民共ニ厚
ク御首意ヲ奉戴シ必ス違犯無之様此段更ニ及布違候事
第六十五號

明治九年四月六日

今般内務省達之旨ニ因リ當縣第六十二號ヲ以テ賣淫罰
則頒布候就而ハ自今違犯ノ者無之答ニ候得共無知ノ小
民從來ノ習弊一時脱却致シ兼萬一罰則ニ觸レ候者有之
候テハ悶然ノ至ニ候間上意ノ厚キヲ貫徹セシメ是等ノ
弊風ヲ矯正レ正業ニ就シムルハ則區戸長ノ責任ニ候條
一層投産ノ道ニ注意懇切教誨可致此旨諭違候事

第七十八號

明治九年四月十五日

煙草賣買之節印紙貼用之儀兼テ御規則モ有之處賣買之際不相當ノ印紙ヲ貼レ或ハ無印紙ヲ以販賣スル等犯則ノ者モ有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ候條御規則ニ基キ營業可致若レ犯則ノ者有之ニ於テハ無猶豫處分可致候間此旨相心得區内無洩可及告示此段相違候事

第八十二號

明治九年四月十九日

近來荷積車ヲ農業用ニ願換候者多々有之候就テハ萬一心得違農車ヲ以外稼業ニ兼用候義等有之犯則ニ陷リ候テハ不相當事ニ候條昨八年七月當縣第百十二號ヲ以心

得方布達ニ及ヒ置候通免稅車ハ耕作ノ物品ヲ耕地へ運搬スルノ外稼業等ニ用候義ハ不相成趣猶又篤ト申諭心得違ノ者無之様取締向一層注意可致此旨相違候事

第九十八號

明治九年五月十一日

夫レ藝妓ノ本業タルヤ歌舞音曲ヲ以テ人ノ歡娛ニ供スルモノニシテ素ヨリ彼ノ娼妓ノ淫ヲ賣ル醜業ノモノニ同シカラス然レテ明治七年十月中遊所區分ノ際藝妓娼妓ト同ク區域ヲ限リ拘束セン所以ノモノハ其節藝妓ノ品行ヲ亂ル殆ント娼妓ノ醜業ト別ナシ難キアリ依テ深ク之ヲ慮リ一時止ムテ得サルニ出ルモノナリ即今賣

淫規則取設候上ハ藝妓ノ如キモ亦決テ前日ノ醜行ナキ
ヲ信ス故ニ這般更ニ藝妓ノ拘束ヲ解キ區域ヲ脱セシメ
他ノ諸藝人ノ部ニ編入レ取扱候條藝者并ニ其父母親戚
等ノ者能ク此意ヲ了解シ自今益々品操ヲ正シ其本業ニ
背カサル様區内無洩告示致スヘク此旨相達候事

第百十四號

明治九年五月三十日

當縣第六十貳號布達賣淫罰則中第二條但書ニ左之通冠
加候條此旨布達候事

苦役ト稱スルハ病院或ハ女紅場ノ使役ニ供スルヲ云
フ

第百二十一號

明治九年六月五日

當縣第百十四號布達删除賣淫罰則中左之通追加候條此
旨布達候事

第六條 第二條ニ苦役ト稱スルハ病院或ハ女紅場ノ
使役ニ供スルヲ云フ

第百四十六號

明治九年七月四日

近時人力車へ神像ヲ描キ裝飾トナス者有之哉ニ相聞候
右ハ不敬ニ涉リ甚不都合ニ付已來右休之儀無之様篤ク
注意可致候事

第百五十九號

明治九年七月十五日

舶來染粉之儀中ニハ砒石昇汞其他ノ毒物ヲ含有セシモ
ノ有之健康ヲ害スルニ付自今飲食物并齒磨粉ノ類ニ右
染粉ヲ以着色販賣不相成候此旨布達候事

第二百一號

明治九年九月十三日

貳厘錢通用之儀ニ付テハ明治八年九月三十日第百卅八
號ヲ以相達置候趣モ有之候處於今種々遁辭ヲ構へ相拒
候向モ有之哉ニ相聞甚以不都合之至ニ候間以來右等之
者有之候ハ、其旨警察出張所へ訴出可申此段布達候事
第二百七號

明治九年九月十六日

平民家督并戸主印鑑届出之儀是迄等閑ニ打過候者往々

有之哉ニ相聞以之外之事ニ候右者彼是ニ涉リ大ニ不都
合ヲ生シ候條以來其時々屹度届出可申此旨更ニ布達候
事

第貳百三拾三號

明治九年十月四日

左之通内務省ヨリ被達候條心得違無之様可致此旨布達
候事

内務省轉達乙第百拾貳號

府 縣

米油限月賣買ノ儀ニ付テハ明治七年十一月太政官第百三
拾八号公布ノ旨モ有之候處各地方ニ於テ從前ノ慣習私
則等ニ據リ類似ノ業体相營來候向モ有之哉ニ相聞へ不

都合ニ候條心得違ノモノ無之様嚴密取締可致候此旨相達候事

明治九年九月廿七日

内務卿大久保利通

甲第三號

明治九年十月十三日

本縣第二百四拾一號ヲ以及布達置候通

皇后宮行啓之際拜上人其他車夫之輩万一心得違之者有之從來之慣習ニ依リ裸體又ハ狀ヲ顯シ不敬之儀有之候テハ決テ不相濟次第ニ付爲心得此段布達候事

甲第十七號

明治九年十一月一日

勸解訴訟及ヒ吟味願ニハ明リニ代人不相成儀ハ兼テ御

達ニ有之候處近來間々舊代言人之輩親族ノ各義ヲ稱シ代人ニ相立候哉ノ趣甚不都合ノ事ニ候條向後違背之者ハ嚴重處置可及ニ付心得違無之様可致此旨布達候事

甲第二十一號

明治九年十一月二日

人力車撓渡世之者往來筋ニ於テ猥リニ疾驅行人之妨害ヲ爲サ、ル様兼テ注意ハ勿論尤夜行之節ハ聲ヲ掛ケ先行人ニ逐迫致サ、ル様可相心得此旨布達候事

乙第二號

明治九年十月十二日

神道各宗說教ニ付テハ聽聞者之都合ニ因リ夜說開筵請求候節ハ聞届不苦候得共夜分開筵之儀ハ自然弊害相生

シ候義モ難計事ニ付開庭之節ハ必ス最寄屯所へ爲届出
且教官ニ於テモ一層注意有之候様可致此旨相達候事

乙第五號

明治九年十月十二日

各宗教導職之者へ用係組長等兼務申付候向モ有之哉ニ
相聞候處自今右兼務之儀ハ不相成候條此旨相達候事
但現今兼務之者ハ速ニ解職可致候事

乙第七十三號

明治九年十二月廿五日

明治八年十二月公布第二百五號烟草稅則第二則中第四
條改正ニ煙艸印紙貼用ノ上賣主ニ於テ印紙全面ノ中心
ヨリ端ニカケ賣印或ハ仕切印ヲ捺スヘシト有之候所聞

々腕印賣却ノモノモ有之哉ニ相聞成規ニ抵觸シ甚以テ
不相濟事ニ付自今心得違ノ者無之様區内煙草營業ノ者
へ無遺漏可相達此段相達候事

番外

明治九年四月十日

當縣第六十二號布達賣淫罰則第一條中窩主初犯ハ廿圓
ト有之ハ(窩主初犯ハ拾圓再犯ハ二十圓)ノ誤ニ候條以段
更ニ布達候事

甲第七號

明治十年一月十三日

海陸軍士官并兵員徽章ノ帽服等相用或ハ賣買不相成旨
去ル明治五年十月中相達候次第モ有之處陸軍徽章有之

物品或ハ兵卒等隨身ノ被服及携帶具ヲ典物ニ引受又ハ
買取候者等有之趣以外之事ニ候條自今典物買取ハ勿
論暫時委託スルモノト雖モ預リ置候義決テ不相成萬一
相背者於有之ハ其品取揚候上屹度處分可致此旨更ニ相
達候事

但無配號之拂物ト雖モ典賣等之節ハ本人ニ隊號官姓
各等取調若身分不相應ノ物品ヲ典賣スル者有之候ハ
直チニ可届出事

甲第五十號

明治十年三月五日

人家近傍耕地ノ畦畔或ハ堤塘等枯草芝生等之場所ハ幼

穉ノ輩戯レニ放火致シ候モ有之哉ニ相聞ヘ以外ノ儀
ニ付自今其父兄ニ於テ子弟ノ者ハ篤ク警誡ヲ加ヘ右様
ノ儀無之様注意可致此旨布達候事

甲第五十一號

明治十年三月八日

近來古衣古道具定市場入札賣買ヲ各トシ空物ヲ以相場
ヲ打テ或ハ纒ニ物品ヲ陳列シ互ニ投票價直ヲトシ幽暗
中勝負ヲ競ヒ其現品ハ市場ノ形況ヲ假粧スル迄ニテ巧
ニ金錢ヲ賭シ博戲ヲナス者有之以ノ外ノ事ニ候條以來
右所業於有之ハ現行賭博ト看做シ直ニ拘引事實取調相
當ノ處分可及候條心得違無之様可致此旨布達候事

甲第七拾一號

明治十年四月九日

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以賣藥トナシ聞届鑑札等下渡相成候向モ有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用之虞ナキヲ免ノス殊ニ本年太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今發賣禁止相成候條此旨管内無洩相達候事

但鑑札所持ノ者ハ所轄警察署へ返納可致候事

甲第百三十三號

明治十年六月廿七日

沿河村々ノ内堤上堤脚等ヲ開作候者モ有之候處右ハ堤防損害ノ憂モ不少ニ付自今一切差止條條此旨布達候事

但從來拜借許可ノ分ハ本年十二月迄ニ返上候儀ト可相心得事

甲第百四十八號

明治十年七月廿六日

明治九年四月中當縣第六十二號布達賣淫罰則中第六條へ左ノ通但書追加候條此旨布達候事

但時宜ニ依リ懲治監又ハ懲役ニ換フ

甲第貳百貳拾四號

明治十年十月十九日

未熟之菓物并ニ腐敗之内類販賣禁止之儀ハ兼而達之趣モ有之候處即今傳染病流行之際更ニ嚴禁候條此旨布達候事

乙第三十四號

明治十年二月一日

區戸長ト雖モ奉職中職獵之義不相成旨今般內務省御達之趣モ有之候條爲心得此旨布達候事

乙第百廿二號

明治十年六月五日

市街村落路傍ハ勿論構内共圍ヒ無之井戸往々有之自然小兒盲人等轉落死傷ノ恐レ不尠萬一是カ爲メ人命ニ關シ候稗之儀釀成候而ハ容易ナラサル儀ニ付其旨篤ト相心得從來圍繞無之井戸ハ其所有主ニ於而速ニ圍ヒ取設候様可致旨管内無洩可及告諭候也

乙第百二十七號

明治十年十月三日

准許ヲ經ルノ外米油限月賣買ハ勿論其類似ノ營業堅ク制止ノ儀ニ付テハ昨明治九年本縣第貳百三十三號ヲ以テ及布達置候處近頃於各所右業体密々相警候哉ニ相聞以テノ外ノ事ニ有之就テハ此度更ニ嚴重取調候答ニ付心得違ノ者無之様豫テ可致注意此旨相達候事

○地所付改租

第三號

明治九年一月九日

別紙之運被相達候條還祿之上地所拂下ケ相願候者ニ無

洩觸示者也

(別紙)

本年九月乙第百二拾七號ヲ以テ還祿ノ者ニ地所拂下處分方相違置候處本年六月三十日前地所入札致シ落札可相成分及ヒ落札之上拂下ケ之儀申出有之分之内官之都合ニ據リ乃チ社寺ノ上地或ハ陸軍省存城地ニ屬スヘシ部ニ分拂下差止候分ニ限リ外場所ニテ再ヒ撰擇之上相當代價之半價ヲ以テ拂下之儀聞届候條此旨相違候事

明治八年十一月十三日

内務卿大久保利通

第五十一號

明治九年三月二十日

地租改正量地之儀ニ付從前指揮或ハ演達等別冊訂正量地心得書ニ齟齬スルモノハ都而取消ト可心得然レモ既往調濟之帳簿圖面ハ其事理成規ニ無妨分ハ強テ拘束變更ニ不及候條此旨可相心得委細之儀ハ各方面派出官吏ヨリ可受指圖此旨相違候事

量地心得書

量地心得書

第一章

量地綱領

第二章	耕地之事
第三章	宅地之事
第四章	社寺之事
第五章	墓地之事
第六章	荒地之事
第七章	道路堤塘之事
第八章	山林原野之事
第九章	池沼溝渠之事
第十章	地番號之事
第十一章	地圖之事

第壹章 量地綱領

第壹條

量地方法ハ其地形ニ適シ便利精覈ヲ得ヘキヲ主トス

第貳條

量地ニ用ユル間竿ハ六尺(砂摺履歩ヲ加フ)ヲ以テ法尺ト心得ヘシ

第三條

斜面ニ耕作スル地形ハ(俗ニ云サソガ畑ノ類)其斜面ヲ以測量スヘキ事

第四條

量地間數之端ハ五夕(即三寸)未滿ハ切捨ト可心得事

第五條

坪詰ハ一筆積算上壹歩未滿ハ切捨ト可心得事
但分積丈量之分ハ厘未滿ヲ切捨ト可心得事

第六條

丈量ノ間數ハ村方下調帳ニ明記シ他日縣廳ニ進達スル
清帳ニハ記載スルニ及ハサル事

但地引清帳ハ別冊雛形ニ照準取調ヘキ事

第七條

官有ノ道路河川堤塘及ヒ溝渠等ハ實測ヲ要セスト雖モ
其徑界ヲ判然調査シ敷地幅員等村々帳簿ニ詳記可致事

第八條

嶮岨或ハ廣漠ノ地ニシテ實測ナリカダキモノハ四至之
境界ヲ明白ニ記注シ凡反別ヲ記載スヘキ事

第九條

民有之道路堤塘溜池井路敷等從前貢租辨納之分ハ總テ
其地租ヲ除キ且公益ニ妨ケナキ分ハ無代價券狀下ケ渡
候條從來作德辨償等有之分ハ人民相對ノ處分ニ任スヘ
キ事

第十條

從前ノ山林現今耕地ニ變シ從前ノ耕地目今竹木等生立

候類ハ其舊稱ニ拘ハラズ總テ現地ニ就テ取調ヘキ事

第十一條

一己所有ノ地ト雖モ道路溝渠等ヲ隔テタル地ハ各別ニ取調一筆トナスヘカラサル事

但耕作徑路及ヒ瑣々タル溝渠等ヲ隔テタルハ一筆ニ調査スルモ妨ケナシトス

第十二條

一己所有ノ地ニシテ地形接續ノ分甚シク地味ノ異ナラサルモノハ從前檢地帳等ノ各受ニ不拘人民ノ便宜ニ寄リ一筆ニ取調候儀ハ不苦候事

第十三條

土地丈量相濟候上ハ畝杭ヲ製シ地番號字ノ名稱地種反別所有者ノ姓名及ヒ數枚ノ地ヲシテ一筆トナス者ハ其枚數ヲ掲載又ハ腹書外書ノアルモノハ之ヲ明記シ實地檢査前各筆ニ建置ヘキ事

第十四條

村界ノ儀ハ量地着手前甲乙村立會其境界ヲ正シ各所必用ノ場所ヘ標柱ヲ建置ヘキ事

第二章 耕地ノ事

第一條

耕地ヲ丈量スルハ畦畔際ヨリ打詰ト可心得事

第二條

耕地ノ畦畔及ヒ濕氣拔等其動質ナルモノハ該地ヲ除去スヘシ則左
スヘカラス其不動質ナルモノハ該地ヲ除去スヘシ則左
ニ條款ヲ設ケ其節目ヲ類別ス

第一款

耕地ノ邊隅ニ苗代ヲ要セン爲メ畦畔休ノモノヲ作
リ及ヒ耕作ノ都合ニ寄リ一時鋤溝ヲ設クルノ類其
動質ナル者ハ該地ヲ除去スヘカラス

第二款

草生ノ畦畔及ヒ斜面畔濕氣拔猶鹿除木ノ根除ノ類
ハ勿論一己所有ノ畑ニテ甲乙ノ境界又ハ比隣所有
人相互ニ其境界ノ耕土ヲ鋤除シ鋤溝ヲ設クルノ類
其不動質ナルモノハ該地ヲ除去スヘシ

第三條

一筆ノ内畑組織錯交ノ地實地難引分モノハ一筆ニ取調
畑反別ヲ内譯ニ可記載事

但畑一筆内項歩畑交錯ノ分其地主ノ情願ニ由リ畑本
種一方ニ視做シ取調フルハ素ヨリ妨ナキ事

第四條

耕地所屬ノ地ニテ竹木其他収利アル瓊歩ハ其本地ニ量入スルモ妨ケナシ右等ノ分ハ本反別ノ腹書ニ可記載事

第五條

一筆ニ屬シタル用水溜井戸敷冷泉場巖石等ハ本地反別ノ外書ニ可記載事
但俚言ニ重テ田堀潰レ及ヒ中ナメシ又ハ鹽溜池杯ト唱フル類ハ本條ニ準シ可取調事

第六條

山間ノ耕地ニ接續スル刈場場ト唱フル地所耕地主所有ノ証ナルモノハ第四條ニ照準可取調事

但山主ノ處有ナル者ハ山地ニ組入取調フヘント雖モ地先耕地主ヨリ刈取候テモ山主於テ異儀無之慣習有之分ハ従前ノ通据置後來紛議ヲ不生様互ニ結約可致事

第七條

耕地ノ内桑茶菓物ノ類栽培スト雖モ總テ畑ト稱シ其種類ヲ區別スルニ及ハサル事

第八條

鹽田ノ内ニアル鹽渡臺但言ニ鹽ホハ本地一ト繩ニ取調其名稱ヲ區別スルニ及ハサル事

第三章

宅地之事

第一條

宅地内ニ茶園林藪池泉田畑等アリト雖モ其名稱ヲ區別セズ總テ宅地ト可取調事

但區域判然タラサルモノハ適宜ニ區域ヲ定ムヘシ且從前廣濶ナル宅地ニシテ此際更ニ區域ヲ定ムルハ人民ノ協議ニ任スヘシ

第二條

宅地外矩リノ畑キハ市街宿驛等人家稠密ノ地ハ之ヲ除去セス敷地ヲ以テ量地スルヲ通則トシ其餘村落等ニ至

テハ之ヲ除去シテ量地スルモ妨ケナシトス尤竹木等生立収利アルモノハ除去スヘカラス

第三條

甲乙宅地中ニ經過スル道ト雖モ丙丁ノ家屋等へ通ヒ欠ヘカラサルモノ、如キ其不動質ナルモノハ該地ヲ除去スヘシ

但本文逕路ハ除稅ニ相成候共其路敷ハ素ヨリ地主ノ處有ユヘ路敷反別丈ケ別筆ニ取調無代價券狀可受事

第四條

家屋ヲ建設スル爲メ民有地ヲ潰シ小徑ヲ設ケ或ハ宅地

内ニ使用ノ爲メ設クル等ノ類其動質ナルモノハ生地同
様相心得本地一ト繩ニ取調ヘキ事

第五條

人民居住地民有地ノ社地(郷村社ヲ除之)學校病院女紅場陶器職
場水車屋等一區ヲナシ家屋建設アルモノハ總テ宅地ト
稱スヘキ事

第六條

陶器并製鹽竈場漁小屋等人民居住地ニ懸隔ナセシ分ハ
其本種ニ取調反別ノ腹書ニ步數ト名稱トヲ記注スヘキ
事

第七條

従前宅地ニシテ目今家作無之地所ハ現地之名稱ヲ以テ
調査可致然レドモ後來家屋建設ノ目途アル分ハ宅地ニ
調査スルモ妨ケナシトス

第四章 社寺之事

第壹條

一區ニシテ官民有地混淆之社寺境内ハ其經界ヲ正シ官
民有之地所各筆ニ調査スヘキ事

第貳條

一區ノ林藪等ヲ幾度ニモ上地相成候箇所地續ニシテ且

種類ノ異ナラサルモノハ一筆ニ取調苦シカラサル事
但拂下處分濟及ヒ拂下願中之分ハ各別ニ調査スベシ
尤願中之分ハ假ニ掛紙ヲ以テ其旨記載スヘキ事

第三條

神社ノ境内ヲ離レ御旅所杯ト唱ヘ一種ノ地ヲ設ケ神輿
休憩神樂修行等ニ用ユル場所民有地之分ハ其地之現稱
ニ寄リ可取調尤官有地ニシテ將來需用致度向ハ拂下願
出ルカ拜借地之積取調可伺出事

第四條

山林原野耕地或ハ村内路傍等ニアル瓊々タル祠堂社巷

塚鳥居石燈籠數等ノ類民有地之分ハ本地一ト繩ニ取調
反別ノ腹書ニ其步數ト名稱トヲ記載シ官有地ニ属スル
地(神社外)將來保存致度モノハ第三條之通可心得事

第五章

墓地ノ事

第一條

從來官民有地ヲ論セス數村或ハ一村共有之墓地ハ箇所
限番號ヲ設ケ可取調事

出一已處有之墓地ト雖モ一區畫ヲナシタルモノハ在
來ノ分ニ限リ除稅相成候ニ付本條之通可取調事

第二條

田畑或ハ宅地等之邊隅ニ點在スル瑣々タル墓地ハ本地
反別之外書ニ記載致ヘク事

第三條

寺院境内有稅無稅ニ不拘共有墓地ハ第一條之通可取調
事

但共有之墓地ト雖モ境内所々ニ星散シ實地引分ケカ
タキ分并瑣々タル分有稅境内ハ外書除稅境内ハ内書
ニ步數ト名稱トヲ記載可致事

第四條

官有之道敷堤敷等ニ設ケタル墳墓ハ地種ヲ區別スルニ

及ハス祭主ノ拜借地ト可心得事

但拜借料等ハ上納ニ及ハサル事

第五條

古來忠臣義僕等之墳墓人民愛護シテ自ラ小祠之姿ヲナ
シ其後裔アルモノハ民有地ト心得其後裔ナキモノハ官
有地ト心得可取調尤四圍人民ノ墳墓ニ接スルモノハ別
段地種ヲ設クルニ及ハス共有墓地トナスヘキ事

第六章 荒地之事

第一條

荒地年季之儀ハ追テ一般調査可致候條地引帳ニハ荒
畑田

反別ノミ可記載事

但一筆ノ内幾分カ荒地之分ハ本地反別ノ外書ニ記載スヘキ事

第二條

荒地之内到底耕地ニ可起返見込無之分ト雖モ竹木草生等ノ収利アルモノハ其現地ノ名稱ヲ付シ生地同様可取調事

第三條

川欠深荒等ニテ丈量ナリカタキ地ハ假ニ舊反別ヲ以テ取調其旨記載致置追テ起返之節實測ヲ要スヘキ儀ト可

心得事

第四條

従前高内ノ地所海成川欠等ニテ到底可起返見込無之モノハ總テ海川敷ト心得ヘキ事

第七章 道路堤塘之事

第一條

道路堤塘内ニ建設アル人民居住地電信柱敷揭示塲小祠等アリト雖モ其名稱ヲ區別セス總テ其大体ニ就キ道敷堤敷ニ可取調事

第二條

道路堤塘ノ内其幅員内ヲ侵墾シ又ハ宅地ニ取圍タルモ
ノハ其步數ハ復舊シ耕地宅地ノ方ハ相除キ可取調事

第八章 山林原野之事

第一條

山林原野等ノ儀ハ耕地田畑調査濟之上引續キ調査候儀
ト可心得事

第二條

平坦ノ地ニ立木アルヲ林ト稱シ山岳ハ總テ山ト稱シ腹
書ニ木立或ハ柴草生等ノ區別ヲ顯スヘシ

第三條

一ノ官林ニシテ數字ニ跨リ候分ハ多分連續ノ字ニ組入
可取調尤其地形ニヨリ數字ニ分裂調査ストモ妨ナシト
ス

第九章 池沼溝渠之事

第一條

溜池ハ堤敷トモ丈量シ其名稱ヲ區別スルニ及ハサル事

第二條

耕用ニ關係ナクシテ専ラ水車用而已ニ設ケタル溝渠ハ
地租ヲ不除其溝敷步數ヲ本地畑ニ量入シ但書ニ内何步
水車用渠敷ト可記事

第十章

地番號之事

第一條

地所ノ番號ヲ設クルニハ當初ニ該村ノ地形ニ依リ字ノ番號ヲ設置スヘキ事

第二條

全村之地番號ハ從前之番號ニ不拘且官民有及ヒ地目ノ別ナク都テ一筆限地順ニ貼番可致事
但官有ノ道路堤塘河川ハ貼番ニ及ハザル事

第三條

大村ニテ其地番號全村通レ番ニ致シカガキ分ハ字順ヲ

正シ每字一筆限リ貼番可致事

第十一章

地圖ノ事

第一條

一村ノ字寄セ略圖及ヒ字限リ精圖ヲ製スヘキ事

第二條

一村字寄略圖及ヒ字限リ精圖共美濃紙(一ニ直紙ト云フ)一枚ヲ以テ製スヘシ然レモ其地形ニ因リ一枚ニ縮圖難出來分ハ合紋ヲ印シ別紙ニスルモ敢テ妨ケナシト雖モ可成縮圖ニ調理スヘキ事

第三條

一村字寄略圖ハ朱字ニテ字番ヲ記入シ墨字ニテ字ノ名稱ヲ記入スヘキ事

第四條

字圖ハ朱字ニテ一筆限リ番號ヲ記入シ墨字ニテ地種ノ名稱ヲ記入スヘキ事

第五條

一筆内(畑)數枚ニ涉リ候分(畑)何枚ト記入スヘキ事

用紙半紙袋

明治九年何月

地 引 帳

第何大區何小區

何國何郡

何 村

何國何郡何村

一番
字何々

一田何畝步

何ノ誰

二番

一畑何畝步

何郡何村 他村ヨリ所有ノ分

三番

一田何反步

何枚

右同人

四番
字何々

一畑何反步

數枚ノ畑ヲ一筆トナス分

何ノ誰

外荒畑 何畝步

五番

一荒畑何畝步

年季有無前條ニ同シ

從前年季受ノ分
年季中
從前無年季ノ分

何ノ誰

六番

一荒畑何反步

右同人

但深荒舊反別

丈量難成分

七番

一反別何畝步

何ノ誰

内畑何畝步

島畑ノ類ニ而實地引分カクキ分

同八番
一 畑 歟 何 畝 步

内 何 步

竹 木 生 草

何 何
ノ ノ
誰 誰

取利アル瓊歩本地ニ量入ノ分

同九番
一 畑 歟 何 畝 步

外 何 步

用 井 冷 戸 水
溜 敷 場 泉 石
之 類

何
ノ
誰

本地ニ属シタル分

用 井 冷 戸 水
溜 敷 場 泉 石
之 類

十番
一 宅 地 何 畝 步

何
ノ
誰

同十一番
一 畑 山 田 歟 何 反 步

右 同 人

内 何 畝 步
宅 地 二 懸 隔 本
種 二 量 入 ノ 分

陶 器 寄 場
製 鹽 場
漁 小 屋
之 類

同十二番

一 境 内 何 反 步

郷 村 社 歟 何 社
貝 外 社 歟 何 社

官 有 地

同十三番
一 境 内 何 反 步

何 寺

官 有 地

内 何 步

墓 地

官 有 地

境内星散ノ